

1. 件名：「泊発電所3号炉の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（179）」

2. 日時：令和6年1月24日(水) 10時00分～12時16分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与、西来主任技術研究調査官、佐藤技術研究調査官

北海道電力株式会社：松村執行役員 他10名

(このうち1名はテレビ会議システムによる出席)

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

・泊発電所 火山影響評価について

<<令和5年12月25日に受取済み>>

・泊発電所 火山影響評価について

・泊発電所 火山影響評価について（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁谷ですそれではヒアリングを始めます。今日のヒアリングの案件としては泊発電所の火山影響評価についてということで、
0:00:11	資料としては数、令和 5 年 12 月 25 日に、
0:00:17	本便が出てきてまして、その間は少し面談等もやってまして、
0:00:23	今日の日付で追加資料というものも出てきていると。
0:00:28	いう、こう三つ資料があると思っています。
0:00:31	まず、事業者の方から資料の説明をお願いいたします。
0:00:39	はい。北海道電力、齋藤です。本日のヒアリングよろしくをお願いいたします。今谷さんからお話ありましたように本日は火山影響評価についてということで、
0:00:49	昨年 12 月 25 日にお出した資料と、それから、今日はですね今日お持ちいたしました資料は、2 施工に関する追加の資料をお持ちしております。これらについてご説明させていただきます。
0:01:05	説明時間は 40 分ほどで、説明は仲山からさせていただきますよろしくをお願いいたします。
0:01:13	はい。北海道電力の仲山です。今、説明させていただきました通り 12 月 25 日に提出した、本編資料と補足説明資料、
0:01:24	それに加えまして本日付で提出させていただいた資料の三部構成となっております。
0:01:31	本編資料をベースに、今回、説明をさせていただきます。本日提出した資料につきましては必要に応じて適宜使用する形としたいと思っております。
0:01:42	はい。まず本編資料 2 ページをお願いします。
0:01:48	2 ページには本編資料の目次示しております。
0:01:52	前回 10 月の審査会合における指摘を踏まえまして、今回 4 章の構成を変更しております。
0:01:59	この構成の変更につきましては後程説明をさせていただきます。
0:02:04	4 ページをお願いします。
0:02:08	4 ページから 1 章、指摘事項及び回答概要を示しております。
0:02:13	本日こちらを中心に説明をさせていただきます。6 ページをお願いします。
0:02:20	6 ページから 8 ページに昨年の 10 月の審査会合及び現地調査の指摘を示しております。
0:02:28	表の中は、グレーハッチングしたものにつきましては、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:32	今後説明予定とさせていただきます。
0:02:35	今回はそのえぐれ以外のものについては説明いたします。
0:02:39	10 ページお願いします。
0:02:45	10 ページから各指摘事項に関する回答の概要を示しています。
0:02:49	まずこの 10 ページ 11 ページですが、10 月審査会合における立地評価に関する指摘事項No. 1 の回答概要を示しています。
0:02:59	指摘事項につきましては上の、白箱に記載してます。
0:03:03	設計対応不可能な火山事象を伴う火山活動の評価について、泊発電所の特徴を踏まえて、説明の適正化を行うことと、
0:03:12	敷地と設計対応不可能な火山事象の到達位置との関係等の泊発電所の特徴に係る整理が重要。
0:03:19	このため、設計対応不可能な火山事象の敷地への到達可能性評価を行った上で、巨大噴火の可能性を含め、
0:03:27	可能性評価を含め、火山活動の活動性を総合的に評価する必要があると。
0:03:33	この 11 ページ左側に前回審査会合における本編資料の章構成を示しております。
0:03:39	右側に、今回提出した資料の章構成示しています
0:03:44	11 ページに示します通り、4 章の内容、検討の順番、今回変更しております
0:03:51	この章。新しい章構成につきましてはまた後程なんですけれども立地評価の流れのページを用いまして説明をさせていただきます。
0:03:59	12 ページをお願いします。
0:04:03	12 ページ、13 ページ、こちらには、昨年の 10 月の審査会合の指摘ナンバー2、になります
0:04:11	巨大噴火の可能性評価において、活動履歴から、巨大噴火が差し迫った状態ではないことを判断した論理がいまだ明確。
0:04:19	評価対象とした、火山の現在の活動状況が、噴出物堆積塑性地方の観点から、それぞれが、巨大噴火の時期とどのような差異が認められているか整理されている。
0:04:31	この整理を受けて事業者がどのような考え方にに基づき、
0:04:35	巨大噴火を噴出したような噴火を起こす状態ではないと判断できるのか、明確に説明することをご指摘いただいています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:43	従来過去に巨大噴火が発生したスポーツ洞爺カルデラは、噴出物堆積組成の観点において、巨大噴火時の状況と現在の状況が異なることから、
0:04:55	巨大噴火を噴出したような噴火を起こす状態ではないと判断しております。
0:04:59	今回過去の巨大噴火時の噴出物堆積噴出物の組成等が異なることが、
0:05:05	巨大噴火を噴出したような噴火を起こす状態ではないと判断していることに対し、どのような論理をもって根拠となっているか、軽重をつけた上で、明確化いたしました。
0:05:16	具体的に言いますと、事実から明確に異なるといえる項目については、この資料上、言い切る形表現を用いておりますが、
0:05:26	明確に違いが認められないものについては、推定という言葉を用いております。
0:05:32	矢印下の青箱に回答を示してます。
0:05:36	内容か何時まで説明させていただきますと、まず支笏カルデラの検討になります。上二つの丸になります。
0:05:43	ここには巨大噴火が1回ございまして、巨大噴火の活動間隔、そして、最後の巨大噴火からの経過時間の観点において、現在の活動状況を判断することは難しいというふうに考えています
0:05:57	一方、3マル目以降になります。
0:06:00	巨大噴火以降の活動は、複数回の活動が認められ、それに伴う噴出物の堆積は、巨大噴火時のものと比べ十分小さいことで、ことから、
0:06:11	推定としてですが、現在、比較的静穏な活動下にあるものと考えております
0:06:17	また、巨大噴火時とそれ以降の噴出物の組成を比較すると、こちらは明確な事実として珪長質ではなく、また、地方の間、地方についても比較した結果、
0:06:28	こちらでも明確な事実として、現在は地方が低いという状況が認められると。
0:06:34	現在の支笏カルデラは、この明確な事実として、組成から、計上した組成ではなく、気温が低いという状況に加えまして、推定ではありますが、
0:06:44	噴出物堆積から比較的静穏な活動下にあるものと考えられることを踏まえると、巨大噴火を起こすような状態ではないというふうに判断しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:54	13 ページ、洞爺カルデラの検討になります。
0:06:58	こちらも支笏と同様なのですが、巨大噴火の活動間隔、それから巨大噴火からの経過時間の観点からは、現在の活動状況を判断することは難しいと考えております
0:07:09	また巨大噴火以降は、巨大噴火時のものと比較して、噴出物体積が異なり、
0:07:15	噴出物の組成につきましては、Kに違いが認められるんですけども、支笏カルデラのように、SiO ₂ に明確な差異は認められておりません。
0:07:24	また、支笏カルデラのようにH本から巨大噴火時との差異を述べるのが難しいという状況でございます。
0:07:31	従いまして、現在の洞爺カルデラは、いずれも比較的、
0:07:36	失礼しました。明確な事実としてではないんですけども、比較的静穏な活動下にあるものと推定されることから、巨大噴火を起こすような状態ではないと、明確に判断することはできないものため、推定という表現を用いております。
0:07:51	なお、洞爺支笏カルデラの活動履歴の評価につきましては、今申し上げた通り少し差が認められるんですけども、地球物理学的調査の検討も踏まえた総合的な評価として、
0:08:03	いずれの方も、巨大噴火の可能性は十分小さいというふうに評価しております
0:08:08	14 ページをお願いします。
0:08:13	14 ページ、15 ページには、昨年10月の審査会合の指摘、何、影響評価に関する指摘のナンバー1、示しています。
0:08:23	指摘の内容ですが、影響評価の評価方針の確認と、
0:08:27	敷地内のF-1 断層開削箇所において認められた火山灰を海食及び、海食日を、給源不明の火山灰として扱い、
0:08:36	降下火砕物の層厚評価の検討対象として抽出することを確認した。
0:08:41	他方で、火山灰の下位白色についてはその扱いを委任していることから、その理由を含めて説明すること。
0:08:49	回答の方針ですが、降下火砕物の層厚評価は、構成物が主に本質物から成るもの。
0:08:55	検討対象とし本質物の少ない。
0:08:58	火山ガラスが混在する堆積物等は検討対象としていませんでした。
0:09:02	F1 開削箇所のスケッチに記載された火山灰についてはそれぞれ会社が異なるので、その判断結果を明確にしました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:10	14 ページの青箱の回答になります。表見ていただきたいと思います。スケッチは 15 ページの方に書いてますのでそちらもご確認いただければと思います
0:09:21	まず火山灰の下位白色につきましては、至近の断層調査の結果、実際に対比される堆積物が、を確認していることから、火山ガラスが混在する堆積物と解釈され、
0:09:34	総括評価の検討対象とならないと判断しております。
0:09:38	一方で火山灰の会食及び会食日については、
0:09:43	至近の断層調査の結果に基づくとし、
0:09:46	積丹半島西岸等に認められる、洞爺や阿蘇 4、
0:09:50	2、対比される可能性が考えられます
0:09:54	これらのカノウ火山灰の場合、同規模の噴火が発生する可能性は十分小さいと評価されますので、検討対象となりません。
0:10:01	一方で、敷地及び敷地近傍で高位段丘堆積物等の上位に対比される堆積物が認められないことから、噴出年代及び給源が不明な降下火砕物である可能性を否定できません。
0:10:14	この場合、主に本質物からなるものかどうかの情報がなく、検討対象外と明確に判断できません。
0:10:22	従いまして総括評価の検討対象として、こちらは上がれるという形になっております。
0:10:29	16 ページをお願いします。
0:10:35	16 ページ、昨年の 10 月の現地調査における指摘事項のナンバー 1 の回答概要を示しています。
0:10:44	火山噴出物の分布に関連する指摘事項でほろ色と 1 の指摘になります
0:10:51	従来赤色の火砕流の堆積物等評価していた堆積物、こちらについて、供給元及び成因を検討するため、今回、さらなるデータの拡充を実施しております。
0:11:03	具体的には、追加の露頭観察、歴史的きの形状調査、
0:11:08	全がん化学組成分析、
0:11:10	薄片観察を実施してございます
0:11:14	結論 16 ページ、十八番です。
0:11:17	赤色の火砕流の堆積物は、火山ガラスの粒子数が少ないこと。
0:11:22	追加の前が組成分析の結果供給圏は複数であること。
0:11:26	浅香の距離駅は、ニセコ雷電火山群ぐらいではないことなのかと。
0:11:32	火砕流堆積物ではないものと判断されます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:35	また当該堆積物は、比較的短い時間で堆積したものと判断されること。
0:11:41	古平層由来と考えられて眼力が認められること。
0:11:45	堆積物中の安山岩歴は古宇川層等が由来と考えられること、供給元は複数であることなどから、フォローのゴトウ 1、北東側の山地を含む範囲に後背地を持つ斜面堆積物であると判断されます
0:12:00	17 ページいっていただいて、
0:12:02	こちら、下部壁面というところに認められる赤色の火砕流用の堆積物の下部に対比される砂まじりシルトにつきましても、
0:12:12	こちら分析や調査の結果ですが、火山ガラスの流出が少ないこと。
0:12:19	軽石が認められないこと。
0:12:21	風間医師ではなく、国弱い水の作用により形成した粒子が認められることから、
0:12:27	火砕流堆積物ではないものと判断されます。
0:12:30	また当該堆積物は定常的な流れにより堆積したものではないと判断されること。
0:12:36	粘土鉱物はほとんど認められないこと。
0:12:39	目標は、水の作用により形成した融氷が認められることから、
0:12:43	静穏な環境下における、
0:12:45	水セイノ陸上堆積物であると判断されます。
0:12:49	したがって、これら、今申し上げた二つの堆積物になるんですけども、
0:12:53	火山事象に伴う堆積物ではないことから、火山影響評価において取り扱う堆積物ではございません。
0:13:01	上部壁面に認められる赤褐色を呈する砂礫層や礫層といった礫層とシルト層、
0:13:08	あと下部壁面に認められる、し砂まじりシルトといった、この二つに関しては成因や供給元を検討した結果、これらが異なるというところから、
0:13:18	異なる地層に区分されるものでございます。
0:13:22	今回追加した機種歴の形状調査の結果については、本編資料 18 ページ、19 ページに、
0:13:29	全がん化学組成分析の結果は 20 ページ、21 ページ
0:13:33	22 ページから 25 ページには、既往の知見において、風間明氏を含むとされているけなシノテフラの薄片観察の結果を示しております
0:13:43	これらの詳細につきましては、補足説明資料の 2-3-1 章の方にも示しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:49	27 ページをお願いします。
0:13:56	27 ページから 31 ページには、火山噴出物の分布に関連する指摘事項のナンバーに示しております
0:14:04	指摘の内容ですが、老古美周辺で実施したボーリング調査のうち、イセコウ火砕流堆積物及びイセコウ以来の火山 6 扇状地堆積物を確認している地点については、
0:14:16	それらを区分する根拠を明確にすること。
0:14:19	従来老古美周辺で実施した行為、ボーリング調査におきましては、
0:14:24	その方式の露頭として考えております。老古美地点の②に認められるイセコウ火砕流堆積物との層相対比から、
0:14:32	火砕流堆積物に区分した堆積物を確認しております
0:14:36	またその下位に、次の状況が認められることから、火山 6 扇状地堆積物と区分したのを見ております。
0:14:44	上位の火砕流との境界付近において、白色のれきの割合が増加するものの、このれきは角閃石等の反証が認められることから、
0:14:54	ある意味ではなく、発泡コウが認められる安山岩利益と解釈されること。
0:14:59	また、火山 6 扇状地堆積物は、十河式の露頭である老古美地点②に認められる井清コウ火砕流堆積物とは宗層が異なること。
0:15:08	今回この火山 6 扇状地堆積物と上位の火砕流堆積物との境界等を詳細に定量的に把握するために、現地調査以降、
0:15:17	一、二十級岩内 6 ボーリングというボーリングにおいて、エクス線CT画像観察実施しております。
0:15:24	29 ページをお願いします。
0:15:30	29 ページに、H29 イワイロックボーリングの深度、4 から 5 メートル。
0:15:37	あと 6 から 7 メートル、8 から 9 メートルのコア写真と、
0:15:41	エクス線CT画像観察結果を掲載しております
0:15:47	震度 6 から 7 メートル、チューナーの写真に示しております通り、従来コア写真に、この緑の線で示す箇所に、飾る扇状地堆積物と、上位のイセコウ火砕流堆積物と、凝灰
0:15:59	示しておりましたが、
0:16:01	エクス線CT画像観察の結果、今後、当該範囲については不明瞭である状況を確認しております

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:08	また、火山 6 扇状地堆積物中に認められる白色のれきにつきましては、エックス線CT画像観察の結果、火砕流堆積物の中に認められる軽石と同様に、低密度な状況が認められます
0:16:21	以上のことからこの白色のれきがある石である可能性も考えられることを踏まえ、
0:16:26	当該箇所と、その下に連続する堆積物につきましては、
0:16:31	火山 6 扇状地堆積物ではなく、火砕流堆積物に区分を見直しております
0:16:36	見直し前、見直し後の地層区分については、28 ページに示しております
0:16:42	また、このボーリングに近接する、一、二十級岩内の 1 ボーリング、
0:16:47	につきましても、この 129 イワイー 6 ボーリングとの対比から、区分見直しでございます
0:16:54	32 ページ、お願いします。
0:17:01	32 ページ、火山噴出物の分布関連の指摘事項、示しております
0:17:08	本指摘事項に対する回答につきましては、本日別途お渡しした資料にて説明をさせていただきます
0:17:15	すいません一旦、令和 6 年 1 月 24 日提出の資料を、ご確認いただければと思います
0:17:22	2 ページの方をお願いします。
0:17:29	指摘事項の内容ですけれども、ニセコ火山噴出物の分布範囲につきましては地質調査結果等を踏まえ、
0:17:36	火砕流堆積物と火山 6 扇状地堆積物を区別するなどの精緻化を図った上で、火砕流の敷地への到達可能性を評価すること。
0:17:45	従来当社作成の火山地質図、3 ページの右側、
0:17:50	左側ですね失礼しました。左側に示します通り、
0:17:53	この火山地質のうち、敷地近傍に認められる。
0:17:57	イセコウ火山噴出物につきましては、ニセコ火山噴出物括弧火砕流堆積物、停留堆積物、火山際さ
0:18:05	という一括記載で、オレンジで示しておりました。
0:18:09	しかしその後のボーリング調査等において、火砕流堆積物が認められる箇所、
0:18:14	火山 6 扇状地堆積物が認められる箇所を把握できていることから、
0:18:18	今回これらの調査結果等に基づき、
0:18:20	火山地質図の精緻化を図っております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:23	その精緻化を図った、更新後の、
0:18:27	火山地質図を 3 ページの右側に示しております。
0:18:32	その上で、文献調査及び地質調査結果を踏まえ、イセコウ火砕流堆積物の分布状況の確認。
0:18:39	火砕流の最大到達距離の確認等を行いまして、
0:18:43	当該堆積物の敷地への到達可能性を評価することといたしました。
0:18:48	3 ページ右側の図、ご確認いただきながら、お聞きいただければと思います
0:18:54	まずこの火山地質の精緻化に当たりまして、どの言った、どのような考え方で行ったかというところを説明させていただきます。
0:19:02	西側の範囲なんですけれども、こちらについては、調査地質調査として 129 イワイー1 ボーリング等がえを実施しております。
0:19:13	その結果、火砕流堆積物が認められ、その下位には火山 6 扇状地が認められる。
0:19:21	この範囲につきましては地質調査において今申し上げた堆積物が確認されること。
0:19:27	またイシダ他 1991。
0:19:29	これが、づく 20 万分の 1 の地質図フクイになりますけれども、こちらにおいて火砕流堆積物が分布するとされている範囲であることを踏まえまして、
0:19:39	イセコウ火砕流堆積物と表記し、こちらについては、
0:19:43	オレンジの凡例で示すことといたしました。
0:19:46	また中央の範囲につきまして、
0:19:49	こちらイシダ他において火砕流堆積物が分布するとされている範囲であることから、
0:19:58	地表付近は火砕流堆積物が分布するものと考えられ、
0:20:02	このため、この範囲につきましても、イセコウ火砕流堆積物と表記し、オレンジの凡例で示すことしております
0:20:10	一方で東側の範囲になります。
0:20:13	東側の範囲地質調査として B3、P7 ボーリング実施しております。
0:20:18	その結果として、火山 6 扇状地堆積物が認められる状況であります
0:20:24	この地質調査において火山 6 扇状地堆積物が認められること。
0:20:29	またこの地質調査箇所、イシダ他のその文献、石田ほかなんですけれどもこの中で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:34	火砕流堆積物が分布されている範囲のうち、縁辺部に位置するということ踏まえまして、
0:20:42	この、こちらにつきましては、ニセコ火山 6 扇状地堆積物と表記し、薄いピンクの凡例で示すことにしております。
0:20:53	すいません 4 ページ、5 ページお願いします。
0:21:02	以上精緻化を行ったものも踏まえまして、ニセコの火砕流の敷地への到達可能性評価を実施しております。その評価結果を 4 ページに示しており、
0:21:14	5 ページには、
0:21:16	検討に用いました地質調査の結果を整理した表を示しております
0:21:21	今回この検討結果を断面図に反映しております。画面作成してわかりやすく示しておりますのでそちらを用いて説明をさせていただきます。
0:21:32	7 ページ、お願いします。
0:21:39	7 ページにはまず、その断面図作成にあたってのその位置の選定の考え方を示しています。
0:21:47	ホームページの右側に当社火山地質図、主
0:21:52	示しておりまして、こちらのに示すニセコ火山噴出物の分布範囲において、給源から敷地方向である、西側の範囲と、
0:22:02	今回この地質図の更新を行いました給源から敷地方向以外である東側の範囲、
0:22:08	この範囲で断面図を作成することにします。
0:22:12	またその間、中間に位置する中央の範囲においても同様に断面図を作成いたしました。
0:22:18	断面図の作成位置につきましては、
0:22:20	給源から末端部方向で見瀬古火山噴出物が認められる地質調査地点付近をより多くTail 駄目。
0:22:28	そして、
0:22:29	堆積時のニセコ火山噴出物がよく保存されていると考えられる尾根部を通る断面、
0:22:35	イセコウ火山噴出物の分布範囲の北川については、地質調査地点をより多く通る断面、
0:22:42	を、
0:22:43	といたしました。
0:22:45	給源から敷地方向、西側の範囲と言っているところで作成したものが、断面、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:51	給源から敷地方向以外で、中央の範囲で作成したものが、B断面、
0:22:57	東側の範囲で作成したのがC断面、
0:23:00	になりまして、その断面図を8ページから示しています
0:23:04	まず8ページ、9ページお願いします。
0:23:12	給源から敷地方向の断面図です。9ページに断面図を示してます。断面、
0:23:18	になります。
0:23:21	老古美周辺におきましては、石田ほか1991に示された火砕流堆積物の分布範囲に、イセコウノ火砕流堆積物の分布が認められます。
0:23:33	なお、この火砕流につきましては、洞爺の下位の層準であり、
0:23:38	老古美地点②において、フィッシュトラック法年代19万年前をえております
0:23:44	また当社火山地質図におけるニセコ火山噴出物、火砕流堆積物の到達位置を、
0:23:50	断面図中のピンクの①と示しているところ、こちらに当たるんですけども、こちらに示しております
0:23:57	さらに石田ほか、文献ですが、こちらに受けた火砕流堆積物の到達位置を断面図②、水色のハッチングかけている箇所になるんですけども、
0:24:07	こちらに示しております。
0:24:11	当社地質調査における火砕流の最大到達地点は、一、二十級岩内の後、ボーリング、
0:24:17	子宮筋からの距離、約10.6キロ。
0:24:20	断面図中の③と、
0:24:23	しているところ。
0:24:24	イシマルさんで引き出してる緑破線の箇所になるんですけども、こちらに、
0:24:28	と考えております
0:24:30	当該地点はインダオカ1991における、火砕流堆積物の分配の縁辺部に位置することから、最大到達点と評価していることについては総合的でございます
0:24:42	また断面図の④で引き出している箇所になりますが、
0:24:47	医師、伊勢田ほか示された、火砕流堆積物の分布範囲外に位置している岩内台地において、
0:24:56	岩内層の上位。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:57	及びM段丘堆積物の下位に火砕流堆積物が認められる可能性が考えられるが、そのような状況が認められております
0:25:06	10 ページ 11 ページをお願いします
0:25:10	10 ページ 11 ページ、中央の範囲のB断面の断面図を、
0:25:14	示しております。
0:25:16	断面図見ていただきたいんですけども、
0:25:18	緑の破線囲みで示す箇所から引き出していますが、
0:25:24	当社火山地質における井清コウ火砕流堆積物の到達位置、これが
0:25:29	ピンクの①です
0:25:30	イシダ他における火砕流堆積物の到達 1、これが、
0:25:35	ブルーの丸 2 としているところです。
0:25:38	及びその最大到達距離は概ね整合的であるという状況を確認しています。
0:25:44	なお、このC1 ボーリングにつきましては、火山 6 扇状地堆積物のみが認められています
0:25:51	このC1 ボーリングというのが、この
0:25:53	赤ばくで 15 ぐらいに示していますが、この範囲投影しているところがC1 ボーリングなんですけれども、
0:26:01	しかしこの範囲につきましては、イシダ他で火砕流堆積物が分布されている範囲となりますので、
0:26:08	C1 ボーリング地点とは異なり、火山 6 チギラよく保存されている範囲となります
0:26:13	このため、地表の付近については、火砕流堆積物が分布しているものというふうに考えております
0:26:20	12 ページ、13 ページをお願いします。
0:26:26	12 ページ 13 ページ、敷地方向以外のうち、東側の範囲。
0:26:32	ノダ面、C断面を示しております。
0:26:36	断面は、先ほど申し上げた通り火山地質図を更新した範囲になります
0:26:42	断面図見ていただきたいんですけども、
0:26:45	ホンダ目におきましては、石田ほかに示された、火砕流堆積物の運搬縁辺部に位置しております、
0:26:53	岩内層の上位井清コウ火砕流堆積物は認められてございません。
0:27:00	以上のことから、文献調査及び地質調査に基づく火砕流の最大到達距離ってというのが同程度、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:07	さらに給源から敷地までの距離というものよりも比較して小さいという状況が認められるという状況を示しております
0:27:17	すいません。戻っていただいて、12月25ページ、12月25提出の、本編資料の36ページをお願いします。
0:27:35	36ページから37ページには、地層区分全般に関連する指摘事項No.4、
0:27:41	の回答概要を示しています
0:27:44	早々から火山碎屑物の可能性が考えられる火山ガラスが少ない堆積物については、重鋳物の有無等の観点も含めて総合的に評価することと。
0:27:55	黄色コウへ上からふた丸めまでには、従来の区分の考え方を示しています。
0:28:00	黄色のこの3マル目以降、回答方針示しています
0:28:05	このような評価を、すいません、利益を含まず、細粒なそう想定するものにつきましては、
0:28:12	火山ガラスが風化等に伴い消失している可能性も考えられ、その中でも、宗層が火山灰と明記されているものについては、その可能性が比較的高いことから、
0:28:23	重鋳物に関する分析結果も含め、総合的に評価することとしています
0:28:28	今回確認したポイントとして上階層と比較して流出のピークが認められるか、屈折率にピークが認められるかといったところに注目着目をしています
0:28:37	37ページ回答になります。
0:28:40	今申し上げた条件。
0:28:43	を踏まえますと、敷地及び敷地近傍におきましては、積丹西岸の古宇川右岸地点で実施した神恵内M3ボーリングの深度9.85から10.15に認められる火山灰が該当し、
0:28:58	このためこの堆積物については、ガラスだけではなく、重鋳物
0:29:02	の、
0:29:02	検討を含めて総合的に評価を行いました。
0:29:07	41ページお願いします。
0:29:12	41ページ、この神恵内M3ボーリングにおいて実施した火山灰分析の結果を示しております
0:29:19	柱状図に火山灰と記載されている堆積物でありまして、オレンジの囲み、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:24	深度 10.05、指し示していますが、
0:29:28	こちらについて組成分析及びガラスと従後物の
0:29:33	屈折に測定実施しております
0:29:36	また、このボーリングにつきましては城委員や甲斐の堆積物についても概ね連続的に組成分析を実施しております
0:29:44	この火山灰と記載されている箇所の組成分析の結果、ガラスの流出が少ない状況であり、上位、
0:29:51	いや、下位の堆積物と比較して、火山ガラス及び重鋳物の流出が同程度、
0:29:57	明瞭なピークは認められません。
0:30:00	また、このグラフ、表の中ですね、緑の囲みで示している箇所。
0:30:05	なのですが、重鋳物の屈折率が、
0:30:08	屈折率については、ブロードな頻度分布を提示しており、明瞭なピークは認められず、
0:30:13	基盤の屈折率と調和的でございます
0:30:17	従いまして当該堆積物は火山事象に伴う堆積物ではないというふうに判断し、
0:30:23	火山影響評価において取り扱う堆積物ではないと評価しております。
0:30:28	42 ページをお願いします。
0:30:32	42 ページ、火山影響評価の基礎データに関連する指摘事項No. 6 の回答概要を示しています
0:30:39	指摘の内容ですが、敷地から最も近いニセコ雷電火山群及びその内、南東側に 1、隣接する。
0:30:47	羊蹄山の活動履歴等については、最新の知見を含め、知見の収集を継続すること。
0:30:54	黄色の箱、1 マル目から 3 マル目には、前段として、知見の収集、反映の考え方を示しております
0:31:02	知見の収集範囲につきましては基本となるデータベースを参照し、さらに、
0:31:07	火山の活動し取りまとめたものなど、評価に関連する知見について抽出。
0:31:12	この抽出にあたっては、より新しい査読論文等を重視した上で選定することを原則としております。
0:31:19	この選定のルールの中で、活動履歴には反映対象としていなかった知見がございました。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:26	今回追加した知見はこれに該当いたします。
0:31:29	4 番目に式の回答方針書いてあるんですけども、
0:31:33	今回、敷地から最も近いイセコウ雷電火山群及び隣接する予定さんの活動状況については、
0:31:41	より新しい噴出年代、またはその可能性が示されている知見があれば、両火山の活動可能性評価に影響がなくても、活動履歴に記載することといたしました。
0:31:52	結論としまして、イセコウ予定でそれぞれ 1 件 1 件を追加し、活動履歴に注釈を追記しております
0:31:59	これらの注釈につきましては補足説明資料の 1 章に記載をしております。
0:32:05	48 ページをお願いします。
0:32:11	48 ページ、49 ページには、立地評価の流れを示しております
0:32:18	48 ページ、3 章の
0:32:21	原子力発電所に影響をおよぼし得る火山の抽出。
0:32:24	記載してありますが、こちらは前回の審査会合から変更はございません。
0:32:29	49 ページ、4 章の流れ示しております。
0:32:33	前回の審査会合におきましては、まず、巨大噴火の可能性評価を含めた火山活動の可能性評価を実施した上で、火山活動の規模と、設計対応不可能な火山事象の評価を実施しておりました。
0:32:47	今回、各火山の火山噴出物の分布等から、泊発電所への影響度合いを踏まえ、まず 4-1 章として、火山活動の規模と、
0:32:58	設計対応不可能な火山事象の評価を実施しております。
0:33:03	その結果として、火砕物密度流以外の事象については敷地に到達する可能性、または敷地に影響を与える可能性は十分小さいと評価しております
0:33:13	火砕物密度流については、洞爺カルデラの巨大噴火に伴う火砕流が敷地に到達した可能性を否定できませんので、詳細な調査検討として、4-2 章、4-3 章において、火山活動の可能性評価を実施いたします。
0:33:28	また支笏カルデラの巨大噴火に伴う火砕流が、
0:33:32	敷地に到達した可能性は十分小さいと評価しているものの、
0:33:36	洞爺カルデラと同様に、
0:33:37	火砕流堆積物が広範囲に分布することなどから、
0:33:41	支笏カルデラについても詳細な調査検討として、4-2 章、4-3 章において、火山活動の可能性評価を実施いたします

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:50	またフローの右の右側になりますが、
0:33:53	ニセコ雷電火山群につきましては、火砕流堆積物が敷地に到達していないというふうに判断しておりますが、
0:34:02	当該堆積物、敷地近傍に認められるといったことから、
0:34:06	のため、地下構造についても確認し、その結果として、A4の4章に掲載しております
0:34:14	なお、前回、10月審査会合の際に、ホームページ上に掲載していたクッタラ登別火山群の巨大噴火の可能性評価の検討につきましては、今回、論理展開変更したため、
0:34:26	補足説明資料の方に掲載箇所を移してございます。
0:34:31	50ページお願いします。
0:34:39	50ページから67ページには、立地評価の流れに対応する立地評価の概要を示しております。
0:34:46	今回立地評価の論理構成変更しておりますので、こちらの概要につきましても、検討の順番を入れ替えるなど、修正を行っております
0:34:54	またこの概要の中で、赤枠や青枠といったところで、
0:34:59	示す箇所なんですけれども、こちらについては、この全体資料の全体の中で、各指摘事項がどのように寄与しているかというところ、こちらの概要のページに掲載しております
0:35:11	すいません、ページ飛びまして、
0:35:17	236ページをお願いします。
0:35:26	236ページから、5章の個別評価の結果を受けた原子力発電所への火山事象の影響評価の結果を示しております。
0:35:35	今回立地評価における論理展開を、泊発電所の特徴を踏まえて適正化したことから、
0:35:41	降下火砕物シミュレーション対象となる降下火砕物を一部変更しております。
0:35:46	239ページお願いします。
0:35:50	239ページから、この1-1章、敷地及び敷地近傍で確認される降下火砕物の検討を示しております
0:35:59	241ページお願いします。
0:36:03	241ページから244ページには、この1-1章のうち、文献に基づく降下火砕物の分布に関する検討結果を示しています。
0:36:12	矢印下の青箱になりますが、
0:36:15	A国8谷津のテフラ抽出してます、AppMAT、阿蘇4KCHB。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:23	またSPFエーワンKDII洞爺、2000年、薄井、この8テフラになります
0:36:28	文献調査に基づくところの8テフラが抽出されます。
0:36:32	200、46ページをお願いします
0:36:41	246ページから、
0:36:43	地質調査の結果に基づき、敷地及び敷地近傍に到達した可能性のある降下火砕物の整理結果を示しています
0:36:51	従前からご説明させていただいている内容A評価で説明させていただいている内容と変わらないんですけれども、
0:36:59	247ページの青箱なんか層厚4日の検討対象となる堆積物は、F-1断層開削箇所
0:37:06	火山灰を海食及び、海食日、
0:37:09	あと、敷地近傍に認められる等や、
0:37:13	いや、阿蘇4といったところになります。
0:37:16	250ページをお願いします。
0:37:21	250ページ、5-1-1章のまとめ示しています。
0:37:24	文献調査及び地質調査において抽出される降下火砕物のうち、SPFエーワンと洞爺につきましては、過去の巨大噴火に伴い噴出したものであり、
0:37:35	立地評価の4-2章において、運用期間中の巨大噴火の可能性評価、可能性は十分小さいと評価されているといったところから、この二つは除き、最も層厚が厚い火山灰、
0:37:48	海食の、
0:37:50	家畜のBというF1開削箇所の火山灰ですけれども、そちら最大層厚約23センチを層厚評価の検討の対象といたします。
0:38:00	253ページ、お願いします。
0:38:05	253ページからは、5-1の2章、降下火砕物シミュレーションの検討結果を示しています。
0:38:12	254ページ、お願いします。
0:38:17	254ページには、5火砕物シミュレーションの抽出条件を示しており、255ページから257ページには、抽出フローを示しております
0:38:28	降下火砕物シミュレーションの検討対象候補として、まずローマ数字1と2の、
0:38:34	降下火砕物抽出しています

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:36	ローマ数字 1 というのが先ほど説明させていただいた文献と地質調査の結果から、敷地及び敷地近傍に到達した可能性のある降下火砕物になります。
0:38:47	またローマ数字 2 なんですけれども、こちらは、運用期間中における活動可能性が十分小さいと判断できない 13 火山を給源として、分布状況が広がりをもつ降下火砕物になります。
0:39:00	なおこのローマ数字 2 の検討につきましては、同一の手法に基づきながら、火砕流や溶岩等を除いた降下火砕物単独の噴出体積を統一的に算出しているスターカーセンナな。
0:39:12	において等層厚線図が示されているものを対象としております
0:39:17	今、抽出した検討対象候補。
0:39:20	となる降下火砕物を対象に、シミュレーション実施必要性の観点からプロセス 1 とプロセスに、
0:39:27	敷地への影響の観点から、プロセス 3 プロセス 4 のスクリーニング実施しまして最終的なシミュレーション対象となる降下火砕物決定しています
0:39:37	プロセス 1 につきましては、文献調査及び地質調査の結果、
0:39:43	敷地における層厚評価可能な降下火砕物を抽出対象外としております
0:39:49	プロセス 2 については、
0:39:51	現状において同規模の噴火の可能性のある降下火砕物の抽出を実施しております。
0:39:59	このプロセス 1 等については、シミュレーション、
0:40:03	説とも層厚カノウというふうに考えているものについて
0:40:07	抽出しています。
0:40:09	また敷地への影響の観点で、プロセス 3 と 4 を実施しています。
0:40:14	ゴコウ火砕物シミュレーションにおいて敷地への影響が大きい降下火砕物を対象とするため、分布習熟上で、
0:40:20	給源から敷地と同程度の距離の時点での層厚を比較し、同一火山を給源とする降下火砕物の中で最も厚いものを、プロセス 3 で抽出します
0:40:30	プロセス 4 におきましてはより敷地への影響が大きい降下火砕物として敷地との距離が最も近い。
0:40:38	羊蹄山は洋一と噴出物量が最も大きいクッタラ登別火山群。
0:40:43	のKT1 を抽出してシミュレーションを実施することにしており、
0:40:48	258 ページには、そのプロセス 3、プロセス 4 で抽出された降下火砕物を噴出した方の位置図、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:54	そして、259 ページには、プロセス 1 から 4 の抽出結果を整理した表を示しております。
0:41:01	本日の説明は以上となります。
0:41:10	はい、谷です。説明ありがとうございました。
0:41:12	何か説明 4 ポツのところとかが 3 ポツのところとかがざっとこう説明飛ばしたんですけど、あの辺は変更してない。
0:41:21	ですかね。
0:41:22	巨大。
0:41:24	いやいやあれは、
0:41:26	その巨大噴火のところは変えてるけれども、その他のコウ。
0:41:31	内容、
0:41:32	説明、
0:41:34	変更したようなところは一通り説明、今のでできました。
0:41:46	はい。北海道電力箕輪です。変更した方、箇所について今一通り説明した。
0:41:52	ものになります。コメント回答に該当するところは一緒に、
0:41:56	説明しましたけども、それに関連するところは、4 章とか、
0:42:00	こちらの方でも同じく変更になってます。
0:42:04	はい谷ですわかりました。
0:42:06	じゃあの確認に入りたいと思います。
0:42:09	ですねまず一番最初に、
0:42:12	今回、
0:42:14	これ面談でもちらりと聞いたんですけど、
0:42:18	6 ページ以降に、
0:42:21	指摘事項っていうのがあって、一部は、今後答えますよと。
0:42:27	ということで今回の資料から外れてるものがあるんですけども、今回のコメントを、
0:42:35	この取捨選択ですね答えるコメントと答えないコメントで、その辺がについてちょっと確認したいんですけど、今回のコメントこれ答えておけば、
0:42:46	立地評価に影響するようなコメントは、
0:42:49	全部答えているっていうことなんですけど、これが、このコメントがそろえたら、もう立地評価の評価はできるだろうということで、
0:42:57	この答えるコメントを選んでるっていうことでいいんですかね。
0:43:06	はい北海道電力箕輪です。今回答えるコメントで立地評価の大枠については、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:11	説明し切れると考えてます残りは、説明性向上に関するところ。
0:43:16	いくつかあるんですけども、
0:43:18	1 オカノ、
0:43:20	大きいところについては説明し切れると考えております。
0:43:25	はい、わかりました
0:43:26	かねその辺の考えがちらっと書いてもらえたら助かりますね、立地評価は。
0:43:31	大枠って言ったのがちょっと気にはなったんですけども。
0:43:35	今回のコメントで答えありますよと。
0:43:39	そ、
0:43:41	そうなんだろうなと思いながら見ていくと、
0:43:46	今度、今回影響評価も説明してるじゃないですか。
0:43:50	その中で、
0:43:52	要するに火山灰の評価に関して、
0:43:58	7 ページの一番下の 7 番、こういったものっていうのは、これ野塚層の中に火山灰あるん。
0:44:06	火山灰に見えますよねっていうようなコメントをしてるんですけど、これは影響しないんですか今回の説明。
0:44:20	はい富沢です。ここについては盗撮 15 センチというところ。
0:44:25	ありますので、
0:44:28	ここが仮に、評価に評価の対象となった場合でも、
0:44:33	評価と、
0:44:35	評価全体には影響しないのかなということで考えております。
0:44:39	それ以外のところで、より厚いところ、
0:44:42	ありませんです。
0:44:43	でもですよ。何か説明のロジックから完全に抜けてますよね。評価対象火山としては、火山灰としてはこういうものにしますっていうのから抜けていることについて、
0:44:54	例えば、今検討中のものが除かれているっていうのが、
0:45:01	何かわからないなと思ったんですけど、その辺何か今これは検討中ですよとこう言って、
0:45:07	つけ足したらいいんじゃないすかねと思うんですけど、どうですか。
0:45:15	北海道電力仲山です。
0:45:19	つけた数、
0:45:20	場合なんですけれども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:22	この1-1章の、
0:45:26	今地質調査の結果というところで、
0:45:29	閾値と敷地近傍でこういったものが認められてますというところを記載して いまして、そこに、
0:45:36	野塚層、
0:45:38	の、今日アノ6で認められているもの、これが、
0:45:42	もし、火山灰であったらというところで今検討中ですよというのを 入れて、
0:45:46	この候補として挙げておくというイメージでよろしいでしょうか。
0:45:52	いや、ちょっとその辺は考えてください。
0:45:56	いや、ただ単純にね、敷地の中での火山灰っていうのが、今、我々は 現地に行って、ここは火山灰じゃないんですかって疑問を持ってる。
0:46:07	それが解消しないまま話を進めていいんですかっていうような、
0:46:11	順番としてはねやっぱり敷地の中、敷地の外ではこういったものがあり ますよっていうのがきちんと整理できてからの話なんじゃないのかなっ て思う中で、
0:46:21	そこは今んところ答えないんだっていう話であれば、
0:46:25	我々も審議するんだったらそれをどう扱ってるのかがわかるように、
0:46:30	してもらいたいなど。
0:46:32	別にこれがあれですよ、評価に影響ないですとかってそんなことを書く 必要ないと思うんですけれども。
0:46:39	今どんな状況なの。
0:46:47	おい、起こりましたんで、
0:46:50	あとはねやコメント回答を最初の方に持ってきますよっていうことは ですね。確かに個別のコメントは先に
0:46:59	埋まる前に議論してしまうっていうのわかるんですけれども、ただねちよ っと、
0:47:05	面談でもちらりと言いましたけど、個別のコメント回答と、全体の評価と の関係がわかりにくくて、確かにこう、こういうことをまとめなさい、ま とめて欲しいと
0:47:16	いうことに対して、麻生その通りまとめているのかもしれないんですけ ど、それが結局どういう評価に繋がってるのか、或いはだから、これま での評価を変える。
0:47:27	必要はなかないことが確認できたとかそういうのも中にはあると思う んですけど。
0:47:32	結果どうなんですかっていうのがですね、何かこう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:39	もうここ別で終わり終わってしまってるような印象があってちょっとその辺工夫してもらえたらなと思います。
0:47:53	そうですね。
0:47:57	ちょっと今日新しく出た資料のほう確認したいんですけども、
0:48:08	ですね 3 ページの方見ていくと、
0:48:15	地質区分、この着色の部分で表しているコウ地質って何なのかっていうのが、
0:48:20	前回の面談から変わってて、
0:48:23	前はナカ山 6 火山、
0:48:26	火砕流及び火山 6 扇状地堆積物というのは小井川木野。
0:48:30	濃いオレンジ色の方の後半でそうだったんですけど今回もこれは、
0:48:35	もうこのオレンジ色に分けてるものは、
0:48:38	の表層地質図としては火砕流堆積物であると。
0:48:42	いうことを判断したってこと。
0:48:44	で、いいですね。だから、
0:48:46	これ、まじってるものとかをここで表現しているわけでもなく、或いは解釈として、
0:48:53	扇状地なんだけど、堆積物は扇状地なんだけど、解釈として、
0:48:59	火砕流にしているんだとか、何かその辺の関係がよくわからなくて、負け結論からすると、もうこの濃いオレンジの部分は火砕流堆積物なんだっていうふうに考えてるってことでいいですね。
0:49:13	はい北海道電力皆川です。その通りでございます。
0:49:17	はいわかりました。
0:49:19	それで、
0:49:20	この
0:49:22	西側の部分だけは、これ前回面談で出たときもそうなんですけど、
0:49:27	これまでの従前の評価と見直しをかけて、いやこれは火砕流じゃなくって、
0:49:36	火山 6 扇状地堆積物にしたんだということですよ。
0:49:45	これ、
0:49:46	確かに、
0:49:48	B、この 3 ページで言うとBさんとかB7 ではそうでしたっていうのが根拠になってるっていうことですよ。で、ただこのB3B7 っていうところも、
0:50:00	イシダ他で言うと、
0:50:03	一応火砕流にはなってるけどその縁辺部なんだと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:08	だから縁辺部のところは、
0:50:10	北海道電力が、
0:50:12	ちゃんと調査したものに基づいて判断したってということで、それで書いた。
0:50:16	という陸理由ですよね。
0:50:18	うん。わかりました。
0:50:21	そうなってくるとね、本当にこれ、
0:50:24	上の方まで全部変えていいのかなっていうのをちょっと、
0:50:29	感じたりはしたんですよ。要するに縁辺部って何なのかっていうと縁辺部で調査で掘る部分っていうのは、この、
0:50:37	ボーリングあるところの話かなというふうに思ったんですけども。
0:50:41	これずっと上まで、
0:50:43	地質図変えていいんだっていう判断はどういう判断で、
0:51:02	当然横野ワタナベです。今回、断面図を作る時の基本的な考え方として尾根筋通しますと言って、尾根筋が一地保存状態が、堆積物の保存状態が比較的良いでしょうということを考えて、
0:51:15	その観点でいくとBさんとBダテ尾根筋を抜けてくる、市田板井で地形的保存状態がいいだろう、堆積物としては残っているだろう。
0:51:24	そこで扇状地しか出てきていないという状況から考えると、統一な地形については、すべて家族扇状地していいんじゃないかっていう考え
0:51:36	はい。考えはわかりました。でもなんかねこれって尾根筋。
0:51:42	ひょっとしたら二つあるのかなとかも見えますけど。
0:51:46	もう少し地形とかも合わせて私もよく見るようにします。
0:52:47	井谷です。それで、
0:52:53	断面図にしてもらってこれわかりよくなったん。
0:52:58	と思ってます。で、これって9ページで例えばね、ボーリングのデータとか載ってますけどこれはどこにDたあるんですっけ。
0:53:08	柱状図だとか写真だとかっていうのは、どっかありますか。
0:53:21	そうですね北海道電力仲山です。補足説明資料の
0:53:29	4章。
0:53:32	今のニセコの火砕流堆積物が敷地に到達した可能性評価。
0:53:36	と、優勝なんですけれどもそちらに一式ボーリング柱状図、
0:53:43	バックデータ載せている。
0:53:45	状況でございます。以上です。
0:53:50	わかりました

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:52	これ全部あるのね 9 ページから 11 ページ、13 ページまでで使ってるものが全部ある。
0:54:07	すいません。北海道電力仲山です。平面図上じゃなくてごめんなさい
0:54:18	7 ページの右側の火山地質図の中で老古美地点、
0:54:25	②のa北川、
0:54:27	2、ロカリティの 3 番とロカリティの 4 番という、
0:54:31	地点、
0:54:32	載せているんですけども、
0:54:34	この地点につきましてはすみません補足説明資料の 4 章にも、データ載せてないという状況になります。
0:54:42	はい。過去の
0:54:44	審査会合資料には、このロカリティの 3 ロカリティー4 の露頭状況の情報、載せておりますので、
0:54:52	そちらをご確認いただければと思っておりますすいません。
0:54:57	あ、すいません。そうですね 4 章の方に載せたいなと思っております。以上です。
0:55:03	判断に使ったもの、今回これ判断に使っているものは載っ。
0:55:08	載せておいて欲しいなというのと、
0:55:12	あとはね断面図で、状況わかるようになったんですけど 9、9 ページの例えばですけど、
0:55:18	これ
0:55:19	言わない 6 ボーリングっていうのが火砕流堆積物説明してますよね。
0:55:26	これ下で、
0:55:28	ここのボーリングでは下で火山 6 扇状地堆積物も把握してるんですよ。
0:55:36	一応、
0:55:40	いや、次の 11 ページとかでは火山 6 扇状地堆積物を C1 でとらえてますっていう話があって、
0:55:49	ていので表記をそろえらしたら、ここアノ火山火砕流の下にカセ火山 6 扇状地があるよっていうのは、
0:55:58	書いてもらった方がいいですね。
0:56:01	要するにこれ、あるんかないのかこれ、パッと見てもわかんなくて、
0:56:07	うん。
0:56:07	だからこの断面図の記載ルールとしては火山 6 扇状地堆積物と火砕流堆積物があるボーリングは全部ちゃんとわかるようにしてますっていう。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:17	ことに。
0:56:18	してもらえたらなと思いますけど。
0:56:22	この二つだけですよね。岩内-6と岩内市だけが、
0:56:26	下方に火山 6010 堆積物があるってことでいいですか。
0:56:33	その通りです。はい。
0:56:35	はい。確認できました。
0:56:40	あとはまた
0:56:43	今、確認した事実確認に基づいて、細かいところを見ていきたいと思いま す。
0:56:51	何か規制庁側からこの辺りの今日出てきた資料とかで、確認しておきた いこととかありますかこれは我々、
0:56:58	ニセコ雷電がどこまで到達したかっていうのは結構大事な事かと思っ てまして前回の現地調査でも、
0:57:05	大事なコメントの一つの柱になるようなことなので、しっかり確認してい きたいと
0:57:11	ということです。
0:57:24	はい中身の方を
0:57:27	行っていきますね。
0:57:32	ですねえ、全然話行こうと思いますけど、今回
0:57:38	本編の資料で本編というか、立地評価の全体の流れの中では、
0:57:44	ニセコ雷電
0:57:46	間違う、大きくクッタラ登別通。
0:57:51	の、
0:57:53	巨大噴火かどうかっていうのを、
0:58:01	前回と変わったところっていうふうに思ってるんですけど。
0:58:05	その辺の話が、109 ページでいいんですかね。
0:58:10	その理由の、
0:58:14	理由として、
0:58:17	到達していないから外すよっていう話は、
0:58:25	僕が聞きたいのは、
0:58:27	109 ページより 104 ページがいいですね。
0:58:37	火砕流の到達距離と敷地からの距離を見比べて、巨大分、
0:58:45	まずは敷地への到達の可能性っていうのを考えた上で、
0:58:50	そのあとに今日それそのうちの巨大噴火として考慮すべき
0:58:55	火山を二つ挙げましたと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:56	いう話ではあるんですけど、これ会合での議論とかを踏まえると、
0:59:02	ただ単に何キロ到達したよとか、そういう話だけじゃない部分も、
0:59:08	あったと思うんですよ。よ要するに敷地方向に来てるんですか来ていないんですかっていう話で、そこ、そこが多分、
0:59:17	洞爺支笏等、クッタラ登別の大きな違いってようなことかと思うんですけれども、その辺の
0:59:28	記載ってというのは、どっかありますか。
0:59:36	北海道電力の箕輪です。
0:59:39	洞爺と支笏が敷地の方向にスズキにわたって広がっているっていうことについては 102 ページとかでまとめているんですけれども、
0:59:48	クッタラ画素敷地の方に向い向かって広がってないですよというように、そういう気
0:59:55	それとしては今は、
0:59:57	野瀬でなくて 100、先ほど 109 ページのところ、
1:00:01	広がり示して、
1:00:03	敷地方向じゃなくて北東方向に、
1:00:06	点がプロットされているというだけの状況になっております。
1:00:20	何かその辺のことを説明しないってのは何か理由があるんですって。それを説明するまでも、
1:00:26	なくて、
1:00:29	電力のワタナベです。ちょっと説明として読み取りづらい部分があって、そこは修正させていただければと思ってるんですけど、基本的には、
1:00:37	支笏と塔屋ってというのは、到達可能性についてかなり丁寧な評価をしますその理由は、
1:00:45	広範囲に分布することと敷地方向に向かって広がり有して広がって分布しているんだってのがトリガーになっていて、
1:00:53	92 ページに、
1:00:55	総まとめみたいなのを書いてるんですけども。
1:00:59	92 ページの青箱の上の方に結びつきのかっこ火砕物密度流って書いてあって、
1:01:06	洞爺については、過去最大の噴火の火砕流が広範囲に分布し、
1:01:11	給源から敷地方向に数十キロにわたって分布するっていう話を持って、詳細な到達可能性評価をします支笏も同じ考え
1:01:20	で、ニセコも、先ほど別紙でご説明したように、結構丁寧に、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:25	到達可能性の評価をしてるんですけどその理由ってのは、やはりここで特別にやる理由が、火砕流が敷地近傍に認められるっていうのがトリガーだと思って
1:01:35	そういう意味で、この青箱に書いてるように施工についても、
1:01:39	到達可能性の評価を丁寧にやってそれは本編でも書かれてるし補足にもひもづくっていう整理になってます。
1:01:45	対して、13 火山中残りの 10 火山ってのはどうなんだっていうところにクッタラも入ってくるんですけども、
1:01:52	逆の意味で敷地近傍にも火砕流はないし敷地方向に広がりを持って有していないジャンルに入ってくるので、シンプルに、それらについては、
1:02:01	式給源からの最大到達距離、距離と給源からの敷地までの距離をもって評価するっていうような整理になってるんですけど。
1:02:09	その考え方が今見えない状況になってるので、
1:02:12	その辺りを例えば 92 ページ等で補ってあげたいと考えてございます。以上です。
1:02:18	わかりました。
1:02:20	なんかねそうなんすよね
1:02:22	92 ページを。
1:02:24	説明されましたけど僕は 102 ページを読んでいた中で、同じようなことが書いてるんだと思うんですけど、
1:02:33	なんかね一番火砕流密度量に対する個別評価っていうので、
1:02:39	一番は、
1:02:40	しか食うは別にそんなに、
1:02:47	それとかこうやって確認しますよという話があった矢印のその先に、
1:02:52	洞爺支笏に世古他の 10 火山っていうふうにいきなりこれが出てくるんですよね。そのこのこの三つが、なぜこう特別扱いされているのかっていう、
1:03:04	最初のところを、何か丁寧に説明してもらったら、
1:03:08	理解が進むのかなと思ってて、確かにこう読んでいくと洞爺と支笏はね、
1:03:16	巨大噴火の評価するからっていう、二つの問題でそのあとにニセコ雷電が、
1:03:22	出てくる。
1:03:23	は、アベてこうならないような、入口の部分をちょっと説明していただけたらなと思いましたけど、今渡部さんの説明で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:32	敷地の方向にきてて、近いところまで来てるようなものは、この三つはちょっと特別に
1:03:40	しっかり見ますよっていう話。
1:03:42	ていうのはわかりましたので
1:03:44	考えはわかりましたので、それは、
1:03:47	資料上わかるようにしてもらいたい。
1:03:56	ですねえ。
1:04:11	あとニセコ雷電がそのあと2 距離の話が 111 ページにあって、
1:04:21	敷地からの距離が 17.2 キロに対して最大到達距離が 11 キロですよっていう話で、
1:04:38	これはあれなんですよね今のこのコメント回答とかも含めて、ニセコ雷電がどこまで本当に到達しているのかをしっかりと、
1:04:47	説明しますよというのがこれが詳細はなのかな。
1:04:54	これ今回の最初の方に出てくるコメント回答と関連があるんですよ。
1:05:04	その辺は何かわかるんだっけ。
1:05:08	コウ。
1:05:09	例えば、
1:05:12	すいません北海道電力仲山です今おっしゃっていた 111 ページの結論のところだと思えますけれども、今回新しく
1:05:22	本日提出した資料。
1:05:25	にこれ 1 章の回答概要のところを示していて、
1:05:29	結論として、
1:05:31	2 ページから 4 ページに、
1:05:36	青箱、記載してます。
1:05:39	この 4 ページの方の箱で書いてる内容というのが、ここの、
1:05:43	火砕物密度流の個別評価到達の可能性というものになりますので、この、今、本日提出した資料の 4 ページのものが最新版の
1:05:55	この検討の結果になります。
1:05:57	この詳細につきましては、補足説明資料の 4 章の方に掲載するという形をとっており、
1:06:04	何かこの 111 ページで到達していませんよっていう話の、この詳細はこういうところでちゃんと検討してるんですよっていうコウマリンクドウのところはしっかりしてくださいねと。
1:06:15	言いたかった中でやっぱり本件にもう、
1:06:19	断面の関係は入って、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:22	入っておくのがいいのかなというふうに思ったの頭、これってね。
1:06:29	何か細かい話を言うと、
1:06:32	17.2 キロに対して 11 キロだから全然大丈夫なんだっていうのが、
1:06:39	わからんでもないんですけど、何かその辺のコウ、11 キロあればいいっていう。
1:06:45	何か、
1:06:46	これは定性的なものとして書いてるだけっていうことでいいんです
1:07:03	電力のワタナベです。1117.2 で、この差が十分でしょうとかは決してUL もんじゃないとは思ってます。その敷地の近傍にある時点でじゃあその 6 キロが融度あるのって言われると、
1:07:16	そこは難しい部分なんで決してこれだけで評価をしようと思ってるわけじゃなくて重要なのが、
1:07:22	今の 12 月 25 - 111 ページで言うと二つあるポチの 1 個目。
1:07:28	も当然重要だと思ってまして、敷地方向に考えていたときに、文献で示される範囲に火砕流がある。
1:07:35	それを超えた時点では、想定される層位に、
1:07:39	確認されないんだよっていうのも重要で単純に距離だけで、まだまだ裕度があるでしょっていうことをもっていようとは思ってないです。
1:07:46	その先のあるべき層に存在しないっていうことと合わせて評価ができると考えていて、
1:07:52	ただこの 111 ページの記載少しシンプルになっちゃってるんですけど、今回お持ちした資料の 4 ページの方は、もう少し見だしをつけて、敷地方向に対してはどうなの。
1:08:05	敷地方向以外だったらどうなの、全方向だったらどうなのっていうような書き方をしてここをもう少し拡充して、ご説明しようと思ってましてこの距離の 6 キロのサブもっていう、十分だっていうことを言うつもりはないというような考えでございます。以上です。
1:08:22	うーん。はい、わかりました。ちょっとなんか僕がの読み方があれなのか今資料見ていくと、11 キロだからいいんだよみたいな感じに感じてしまうような、
1:08:35	ちょっともう少しちゃんと読めば、
1:08:37	意図が伝わってくるのかもしれないですけどねそんな気がし、して確認したっていうところです。
1:08:42	さらに雄踏、例えば何か
1:08:48	例えばニセコ来、僕の思い違いかもしれないですけど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:53	クッタラ登別っていうのは地形的な障害があって敷地方向には、
1:08:58	何か到達していないんじゃないのかみたいなニュアンスがあったと。
1:09:03	言ったら上りですね。
1:09:05	あそこを越えて、
1:09:06	分布していないという言い方でした。
1:09:08	なんかそういう話であれば、この 9、
1:09:12	ニセコ雷電の羊糞がどういう分布しているのかっていうのを考えると、
1:09:19	何か結局地形なりにしか分布していないってことなんですかね。な、
1:09:25	そういう何か、
1:09:28	何か言い得るような、
1:09:30	のことを考えてはない。
1:09:53	所長、ちょっとワタナベです。検討させていただく事実としてはおっしゃる通り、
1:09:59	火山 6 っていうんですかね。
1:10:02	元を形成している地形の範囲におさまってるんだらうっていうのが、
1:10:06	思ってございまして、
1:10:07	そういったところで、
1:10:09	何か地形的障害を超えていないっていう、クッタラの常盤ビーフ江藤下とかあの辺の話の話を少ししてたんですけども、
1:10:17	明らかニイヌマコウ、地形的高まりっていうのが敷地近傍では言うことは難しいので、
1:10:23	地形的特徴として何か言えないかってのは少し検討させていただければと思います。以上です。わかりました。
1:10:30	そうですね地形的障害なんかここには
1:10:33	私が見てもなさそうで、北海道電力として特に特に説明したいのはシャクナゲ岳噴出物のことであって、そういった分布はこうなってるっていう。
1:10:47	ものもあるのかもしれない、くって、ただ単に距離だけ距離、距離、わかりやすい。
1:10:54	話ではあるんですけど、
1:10:56	距離だけでないものも見ているのであれば、
1:10:59	特に近い火山ということですね、何か見ているものがあればそれは主張したことを抹消してくださいよっていうのが、
1:11:07	私の方のいいということです。
1:11:09	ここは以上です。
1:11:13	ですね、次はね、ちょっと

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:16	説明の理屈が、
1:11:19	少しわかりにくいなっていうようなところを例示して、こう言いたいんですけど 116 ページなんですけれども、
1:11:32	こういうのは、
1:11:37	ちょっと私の読み方もよくないのかもしれないんですけども、一つ目の四角で、こういうことやりますよっていうのを書いてますよね。
1:11:45	13 火山は、こういったものを着目してこういったものを確認しますっていうような宣言が、
1:11:53	四つ目の四角でいいんですかね。
1:11:55	で、二つ目の四角が、
1:11:57	地震活動と地殻変動気象庁のことについてまとめたことがもう書いてあるんですよ。これ確かにこの後の、
1:12:06	ページを見ていくと、似たようなことが書いてあると。
1:12:10	そのあとにまたこれをサマリーして、それをまとめるような形で、
1:12:18	何か十分小さいと評価されるっていうこの関係がね、何かよくわからなくて、要するに
1:12:27	一つ目のポツ、
1:12:28	一番下の日、一つ目のポツに施工雷電火山群及び羊蹄山に家財か火山活動状況に変化が認められない。
1:12:37	これはどこのことを言ってるんで、
1:12:41	この上、上の、
1:12:44	何、何から、
1:12:45	こうこう判断。
1:12:48	はい。北海道電力箕輪です。
1:12:51	この衛藤。
1:12:53	花山常務に変化が認められないっていうところは上野衛藤真ん中の箱の、
1:12:58	地震活動のところですねこれ停車自身の分布が後ろの方に示されてますけどそれが、
1:13:04	例えば、イセコウで言えば今イワオヌプリの下に、
1:13:08	あるんですけどそれが敷地の方に、北西の方に移動してるとかそういった、
1:13:14	状況は、
1:13:15	ないです。
1:13:17	いうことをっております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:19	この地震活動の一つ目のことを使っているということですかね。
1:13:25	この気象庁の話はここに入っていない。
1:13:31	町長も、
1:13:33	結構不定期で2年おきとかにしか出てませんが、
1:13:37	ずっと噴火の兆候は認められないと言ってることも、そうですね
1:13:42	はい。状況に変化がないという一つになります。
1:13:47	二つ目のポチは、敷地付近低周波地震を認めない。これ地震の観測の話ですね。
1:14:00	で、
1:14:03	ちょっと最後ニセコ雷電以外のっていう話が出てき
1:14:07	て、
1:14:09	よそ矢印でいうと、一つ目の1二つ目のポツがこの真ん中からかかってくることであって、三つ目のポツっていうのは、全然こう、
1:14:19	違った話。
1:14:23	で、二つ目の四角のうち、
1:14:26	地殻変動っていうのは、
1:14:29	どこどこに行くんですかとかいうのがね、僕はここ関係見ててね、何かよくわからなくて、
1:14:35	結局この、順番にこう話していくのであれば、どう関係しているのかっていうのをですね改めてこうちょっとわかるような記載を、これ多分、ここが、
1:14:46	ちょっと、
1:14:46	特に僕は、
1:14:48	危機になったので確認して他も実はあるんですよこの矢印がどんな関係なの。
1:14:55	ちょっと全体を通して見て欲しいのと、今この、ちょっと質問としては地殻変動っていうのはこの後、
1:15:07	ポツではどうなるんですか。
1:15:10	すいません。先ほどからの説明が足りなくて申し訳ないけど、
1:15:15	状況について、一番上の箱で、2000本と要点について火山活動状況、地震と地殻と、
1:15:23	気象庁の情報使ってやっていきますと。
1:15:26	いうこと。
1:15:27	いうことを謳ってますので、使っております。
1:15:30	地殻変動も、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:32	火山活動に、状況に変化が認められないで使ってて、はい。
1:15:38	で、
1:15:39	火山活動の状況に変化が認められないってことは、新しい火口の開口もないし、
1:15:46	地殻変動も発生しないってそういう理屈なんですかね。
1:15:52	そうですねあの近く、火山事象としての地殻変動については、新しい火口の開口に、
1:16:00	付随するといいますか。
1:16:05	付随するものとして考えてますので、
1:16:07	昨年度もないということになります。
1:16:10	はい。
1:16:12	ちょっとその辺わかるようにしてもらったらと思う。大体論旨というか、わかりました。
1:16:19	ちょっと
1:16:21	僕、見方を教えて欲しいんですけど。
1:16:24	一つ目に低周波地震を含む地震活動が敷地方向に移動する状況は認められないって書いてるんですけど、これはどこ見たらわかりますか。
1:16:39	はい北海道電力箕輪です。
1:16:42	100、
1:16:44	17 ページのところに、
1:16:48	町長の活火山総覧から引用してきている、信用分布図、
1:16:53	等、117 ページ右側の方の図ですね、こちら、
1:16:58	載せているんですけどもその中で時空間分布というものありますので、
1:17:03	それが変わってないですと。
1:17:20	これ
1:17:23	わかります。これで見ればいいんですね。
1:17:26	はい。
1:17:28	ちなみに、
1:17:29	なんか僕もこれ、
1:17:32	他のサイトのこの
1:17:36	判断だとかもう、
1:17:37	参考に見たりしてるんですけども、
1:17:42	他のサイトって
1:17:44	特に敷地低周波地震が認められないとかそういったことを、
1:17:51	大きく書いてるような気がするんですよ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:56	確かにそのニセコ雷電ここは、
1:17:58	泊の特徴を踏まえるとニセコ雷電と羊蹄山を見なければいけないですよってというようなことでやってるんですけど、
1:18:05	例えばねこの 127 ページの、
1:18:09	火山活動。
1:18:11	解説資料とか、
1:18:14	言ってるものが、
1:18:19	これ不定期になんかで出てきますって言ってますけれども、
1:18:24	これが例えば噴火の兆候が認められたときは、北海道電力のこの判断ってというのは、
1:18:32	変わってくるんですか。
1:18:38	例えば噴気が認められましたってここで例えば出てくると、今の、
1:18:45	新しい火口の開口地殻変動のコウ、
1:18:48	OKという理屈が 1 個コウなくなる。
1:18:51	と思ってるんで、
1:19:10	はい。北海道電力箕輪です。衛藤。
1:19:13	このニセコの火山活動解説については、イワマイセコウの中でも、イワオヌプリについて出てるものなので、ここ、
1:19:22	イワオヌプリで噴気が、
1:19:24	出ましたとかそういうのもあったとしても新しい火口の開口としては、
1:19:31	何ですかね評価については変わらないのかなと考えてます。
1:19:36	そしたら、
1:19:38	これちなみについてということで気象庁入れてるってことを言ってます。
1:19:43	どうなったらこれは、
1:19:46	十分小さいと評価している前提が、
1:19:50	崩れるような要件に、
1:19:52	なるようなものを、
1:19:54	もう、
1:19:58	嘘その関係なんですよ。
1:20:03	藤電力の渡部です。某
1:20:06	当然今の活動の中心はイワオヌプリなので、そこが静穏であることってのは大事な条件かとは思いますが、例えばここで噴気が認められましたとなった
1:20:16	時に、他のデータ
1:20:18	低周波地震、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:19	地殻変動等を見ていったときに、
1:20:21	噴気が認められている状況にはあるが、今低周波地震としては、顕著な、今の下にあるという状況が敷地が近づいていくとか、
1:20:31	そういう状況にはないっていうことは補足していけると思うので、現在の活動中心の河口のあるイワオヌプリで噴気があるイコール新しい火口の開口にダイレクトに繋がっていくんじゃないんじゃ
1:20:41	いて、
1:20:42	それに関する、
1:20:44	検討というものは、他のデータをもってしていくことは可能じゃないかと考え
1:20:49	なんでこれが今まで噴気があったから、新しい火口の開口が疑われるんじゃないかということにすぐにはならないんじゃないかと思ってますし、このデータがサブでしかないよっていうわけでも当然なくて、
1:20:59	ここで噴気があるんであれば他のデータはどうなんだろうっていう見方はしていくもんだと。
1:21:22	あとは、これにニセコアノアマノワタナベさんも言いましたけど、イワオヌプリについて、こうやって書いてるんですけど、
1:21:30	何かニセコ雷電っていうこう1括りでいうと、
1:21:34	例えば噴気が出てたりコウ、
1:21:37	するんじゃないかと思うんですけど。
1:21:47	そういうのを
1:21:50	どう考えてるのかなというのをちょっと確認させてください。
1:23:17	ちょっと私これもう少し
1:23:19	事実関係も確認してみても考えるようにしますけどとりあえずの説明を
1:23:28	わかり
1:23:32	後はね 143 ページとか、
1:23:40	これね、145、152 ページとかもう少しですね、次は、次は、
1:23:47	大きくして欲しいなど。
1:23:50	思います。これ、
1:23:52	さすがに字ばかりここまで入ってくると、
1:23:56	何か総括しているようで実はその後ろの分がべったり貼ってある。
1:24:01	ようなところで、
1:24:03	ねちょっと僕この文章を確認したくて、このページじゃなくって
1:24:10	最初の、
1:24:12	回答概要で、支笏と、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:15	とうや並んでるのどこのページでした。
1:24:36	これですね 12 ページと 13 ページで、
1:24:40	最後の従っての文章なんですけれども、
1:24:46	言いたいことをちょっと確認すると。
1:24:49	12 ページは、支笏カルデラ珪長質な組成ではない。
1:24:56	地温も低い。
1:24:58	で、噴出物堆積っていうこう三つから比較的静穏な間活動下にあると言 ってるんですけどそれとも、
1:25:07	珪長質の組成じゃないから、
1:25:10	噴火を引き起こす状態ではない、地温も低いことから、噴火を起こすよ うな状態ではない。
1:25:17	ただ、噴出物堆積から比較的静穏な環境下にあるっていう、
1:25:23	この
1:25:24	比較的、
1:25:25	静穏な活動かっていうのはどどれから言ってるんです。
1:25:42	はい。北海道電力箕輪ですここに挙げて珪長質地温堆積の三つか ら、この従って以降のところの、
1:25:49	比較的イセセンナ活動下にあるということ、形で行っています。
1:25:57	すいません、北海道電力の渡部です。支笏の方でいくと、
1:26:02	珪長質の組成ではない、巨大噴火を表層等が珪長質だって言ってます のでまずそれじゃないっていう事実。
1:26:10	それと、地温が当時、SPワン噴出した深度の地温っていうのが推定文 献で推定されてそれに対して現状低いっていう事実。
1:26:20	あります。
1:26:21	これに加えて書いてるけどまずはここは事実二つ並べて、
1:26:26	その辺り噴出物堆積っていうことに対しては、
1:26:30	上の 1、2、三つ目の記載ですね、後カルデラ期に入ってきたときの最大 の噴出量って相場でも 15 立方キロ程度なので、
1:26:41	現在の支笏カルデラというのは比較的この、
1:26:45	噴出物の量から静穏な活動下にあると推定されるという推定を入れて ますので、
1:26:51	事実違うという事実二つと、噴出物堆積から静穏なんだろうねっていう 推定この三つをあわせもって、最終的にSP案不必要な噴火を起こす状 態ではないということを判断できるっていうような

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:06	言い方をします。わかりました。だからあれですよね珪長質な塑性じゃないから、SPワン噴出したような噴火を引き起こす状態ではないというのが一つ。地方も低いからSP湾を紛失した。
1:27:18	ような噴火を必要と構成がある状態ではないと。
1:27:21	三つ目が、比較的静穏な活動にあるからっていうことを言ってるんですよ。
1:27:26	でね。
1:27:27	うん。うん。何か文章としてはそういうことかなって思ったんですけど。
1:27:32	何で迷ったかって 13 ページは、
1:27:36	これ噴出物堆積と、
1:27:39	組成から、
1:27:42	静穏な活動かって言ってんだ。
1:27:44	こっちは組成を使って、
1:27:47	比較的静穏な活動か。
1:27:50	って言ってるってことです。
1:27:52	北海道電力のワタナベ、少しこの繋がりがすいません見えにくくなると思うんですけど、違いとしては遠矢の場合組成が違うってのは明らかなんですけども、
1:28:00	その違う成分が、
1:28:02	下流部
1:28:03	というところにございまして、
1:28:05	今の有珠の噴出物が珪長質なのかどうかっていう観点でいくと、
1:28:11	シリカ自体は減少傾向に、時系列で見えていくとあるんですけども、珪長質な状態であることってのは事実としてございますので、
1:28:19	珪長質じゃないってというような、明確にその当時と違うってことが言いづらいと。
1:28:24	考えてまして、これをもって、
1:28:28	TPを紛失な噴火を起こす状態でないと判断されるまで持っていくのは難しいだろうと思って
1:28:33	あくまでイマイウノKが違うということは、先ほどの体積が小さいということとあわせて、現状静穏な状況にあるんだろうねという推定に寄与できる程度かなってような考えでございました。以上
1:28:50	あれですか。両方。
1:28:53	なんか支笏と洞爺アノ遠矢の方はもともとK II の話をして、さらに今回はSiOII日、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:02	の話も、
1:29:03	減少傾向があるっていうのが加わったのが、どっかであれが加わったと思うんですけど。
1:29:09	要するに珪長質かどうかっていう話は両方に出てくるんだけど、最終的な判断として使い方が、
1:29:17	もう違うってことですね、これ。
1:29:20	電力のワタナベです。そこが違っている珪長質がどうかっていうところが最後に効いてきて、
1:29:26	そこで判断の強弱が出てこざるをえないという風に思ってます。はい。
1:29:32	だからあれですね、もうざくっと言ってしまうと洞爺カルデラでは、
1:29:36	珪長質の組成ではないから、巨大噴火PPのような噴火を起こす。
1:29:42	状態ではないっていうのは言えない、地温が低いから、そういうことがないっていうのも、これも言えないっていうことでいいですか。
1:29:50	電力の渡部です。はい。活動履歴の観点では強く違うという判断までには至れないと、遠矢の場合は思っていて、
1:29:58	そのウィークポイントについては地球物理学的調査でオギ補うことをもって、最終的に巨大噴火が差し迫った状況ではないと判断されるに持っていくというような考えでございます
1:30:09	以上です
1:30:11	わかりました。で、
1:30:13	考えはわかったんですね。ただねこれ、僕 12 ページだけを読むと、渡邊さんがおっしゃってたことの通り、解釈できるんですけど何か二つが並ぶとあれ。
1:30:24	おんなじ個性がっていうのがあって、ちょっとだけこうこう、文章の表し方の工夫をして欲しいですね
1:30:33	例えば以下の点からってして珪長質だから、SPはのようなことはない、何とかだからなど。
1:30:38	その辺は、
1:30:40	誤解を招かないようにお願いいたします。
1:30:47	でもですよ。
1:30:49	でもですよ、13 ページで、何でK II オオノ重量比が低かったら、
1:30:55	静穏な家活動下にあるっていえるんです。
1:31:03	北海道電力のですねその辺の紐づきが、血をということでTPと違うということとSIが減少傾向にあるっていうのもあわせて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:13	珪長質なんだけど、どちらかというと安山岩質中間室よりに遷移しつつあるっていうところも、
1:31:20	考えていましてそこが少し見えづらいかなと思っておりますので、修文できればと考えてございます。以上です
1:31:28	うん。はい。
1:31:30	そうなってくると、説明しなきゃいけないのはK II 大賀-9 ってさらにSiO IIが、
1:31:37	減少傾向にあることは、
1:31:41	静穏な活動下に、
1:31:44	あると考えるんだっていうこの繋がりの方が、
1:31:49	僕はそのちょっと先入観から、この組成がTPと違うから、だから、この支筋と同じように、
1:31:56	PPのような噴火とは、
1:31:58	今の状況が違うっていうような説明をしたいのかなってもともとはそう思ってたんですよね。
1:32:04	で、
1:32:05	ちょっときちっと正しく、
1:32:09	こう書くとしたら何か渡部さんの説明が正しいんだと思うので、まずその
1:32:14	正確にお願いします。ここん多分大事な部分で、コメント回答の部分でもありますし、承知いたしましたワタナベすみませんちょっと揺らいでて申し訳ないんですけど、Kが違う、SISが下がり傾向にあるっていうのが、
1:32:28	田井さんおっしゃるように果たして静穏な活動かに効いてくるパートなのか、TPと違うっていうところに効いてくるのか、ダイレクト
1:32:35	というのが、すみません、もう少し、
1:32:38	修文というか、検討の余地があるなど今聞いてて思いましたので、
1:32:42	適正化なりをさせていただければと思います。以上です。わかりましたお願いします。
1:32:48	あとはね 143 ページなんですけれども、
1:32:53	僕もこのリクエストなんですけれども、この多分、いろいろ書いてある中で、青文字の方が青文字で書いていることが、結局のところ市長として大事な部分。
1:33:04	思ってるんですけど、この青の部分はずね。
1:33:08	多分、
1:33:11	何か

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:13	上に書いてある、たくさんのことタテ地下構造。
1:33:17	一つ目の活動履歴はわかりました。今の確認で、地下構造は、
1:33:22	こう判断したんだけど、できればですね、この何か例えば審査書に書く ような、審査支援申請書に書くんだったらどう書くのか
1:33:31	な、何と、何がどうだからどうなんだってというような、
1:33:35	ここのところずらずら書いてあることで、
1:33:40	なんていう
1:33:41	ところの中の、何をもってこう言ってるのかっていうのがですね、ちょっと わかるような文章にして欲しいなど。
1:33:47	いうのを思いましたここ多分大事なところですね。
1:34:27	本が、
1:34:29	ちょっと不調で機器の関係でちょっと止めます。
1:34:39	はい。機械修復して再開します。
1:34:45	他にこのあたりで何か確認したいこととかある、あれば
1:34:50	はい、お願いします。
1:34:53	研究部門の佐藤と申します。先ほど谷さんからちょうど指摘があったと ころで
1:34:59	考え方を聞かせていただきたいんですけど洞爺のカルデラの件で、
1:35:03	ポストカルデラの活動が、今シリカが
1:35:08	藤宇津さんの歴史時代の噴出物がシリカの重量比が減少傾向にあると いうふうなことを
1:35:14	おっしゃっているんですけども、
1:35:16	これ、どうして減少傾向にあるかっていうのは今、どのように考えてらっ しゃいますか。
1:35:38	江藤ご指摘いただいた点に関しては 191 ページ。
1:35:43	の右下の図
1:35:45	の点かと思われますけども、
1:35:53	文系中にですねこちらの図が載ってまして事実として、
1:35:58	1663 年の噴火では、大体 76%。
1:36:02	程度という事実がありましてまた 2000 年に関しては、70%程度というこ の事実をもって減少している。
1:36:10	傾向がある。
1:36:11	事実記載をしているという状況になっております。
1:36:15	までは考えていないと。
1:36:17	原因については検討はしてございません。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:36:22	ポストカルデラの活動で強いかが減少傾向にあるとさらにケースをも低いというようなことを考えると例えば、
1:36:29	マントルからフィックなマグマの供給が増えてきているとかそういうことを考えるとむしろ活動度が上がってるなんていう解釈にもなってしまいうんじやないかっていうふうに考えるんですけれど
1:36:40	ここは否定できますか。
1:36:43	現状今の資料では相当、今ご指摘いただいた点に関して否定はできないという状況です。
1:36:54	研究部の認識ですけども、そういう考え方も取り入れるので、多分この辺り示される時には丁寧に説明しておかないと多分今後、そういう、
1:37:07	我々も判断する時もそうですし、その後の時もいろいろ出てくると思いますので、特に化学組成を扱うときは、
1:37:16	ただその傾向だけ申す重要なんですけどそれがどうなってるのかなところも含めてご説明された方が、より良いかなと思いますのでその辺りちよつと
1:37:25	今後検討いただければ良いかなということでの確認でした。以上です
1:37:31	いたしました。ありがとうございます。
1:37:38	単にこれね私もおんなじページで 191 ページで、
1:37:43	何かね。
1:37:46	これ、事実だけをこう説明したんですとか言ってますけど、これでも結局評価に使ってるじゃないですか。
1:37:54	活動。
1:37:55	セイノ、活動履歴からの、これの下、
1:37:59	このページでの言いたいことは、
1:38:02	何なんですか。
1:38:04	ていうのが、
1:38:06	こっから土工どういうロジックになるのかわかんないですよ。
1:38:12	だから何なのかっていう部分はどこどこに書いてんですつけ。
1:38:17	この点に関しましては 191 ページについては上の箱、
1:38:23	2、事実が記載してそのうち、まとめた
1:38:27	文章を、下の矢印以降の箱に記載をしております。
1:38:32	で、こちらの文章から、
1:38:36	我々の主張としましては、
1:38:43	6 ページから 187 ページ。
1:38:46	に流れてくる文章の中に、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:49	記載をしている。
1:38:53	という状況となっております。
1:39:09	でもさ、187 ページを見ても、
1:39:14	事実だけがこう書かれてて、
1:39:17	従ってって最後に書いてあるんだけど、
1:39:23	こっからさっきの渡邊さんとの話に戻るのかもしれないですけど、こっから何を言ってるのかっていうのが、やっぱりこう明確にしてもらって、
1:39:33	ニワ、
1:39:34	この 191 ページで 1 回、ここの観点からは、こういうことが示唆されているのか、こういうことがいえるのか。
1:39:42	ていうのが、何かこうまとめとしては、
1:39:45	あったら何か繋がっていくのかもしれないので、その辺の工夫をお願いします。
1:39:54	北海道電力の渡部です。少し考え方を整理します。先ほどの佐藤さんのお話もあったように、例えば清 4 名活動下にあると推定されるっていうふうにこの組成を聞かすのであれば、
1:40:07	逆に活動と活発になってる見方もあるんじゃないのっていう話があってその辺の考え方をきちっと整理しなければならないと思ってます。
1:40:15	一方で事実として違いますよ。
1:40:17	つまり、最終的に言いたいので TP を噴火した状態ではないってことに持っていきたいので、ダイレクトにそこに聞かすのであれば、その静穏化にかける必要があまりなくて、我々としてどちら側に効かす必要があるんだとか、
1:40:31	その辺の紐付けを明確にするように検討させていただければと思います。以上で、
1:40:40	研究部門西来ですけども、今若山さんおっしゃっていただいたところちょっと書き
1:40:46	たいなと思ったところで比較的静穏化の活動というと、
1:40:51	いや、個別活動的じゃんというふうに思う方がやっぱり多いと思うんですねそれは活動的な
1:40:56	おっしゃってる活動費、比較的静穏というのは、
1:41:00	いわゆるカルデラ噴火のような状況に対してということだと思んですけど、ここの部分だけ引っ張ってこられるとやや臼田さんとか、アクティブじゃないかなってしまうので、ちょっとこの辺の、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:10	主張されたこととのあれがちょっとずれて見えてしまうところがあるなど 思ってたものでそこは少し検討された方がいいかなと思ってましたので 今おっしゃった内容。
1:41:20	ここがどこまでこの意味があるのかも含めて
1:41:25	少し考えていただいた方が良くないかなと思いますのではい。
1:41:30	電力の渡部です。ありがとうございます。そうです活動履歴からやはり いえることって限られてくるって私ども持ってまして。
1:41:39	その中で何がいえるのっていうのはやっぱりさ、結局言えてTPのそれと 違うSPのそれと違うっていうことに集約されてくるのかなと。
1:41:47	それ以外の将来の活動可能性っていうのを評価してくのはやっぱり物 に頼ってくる部分があると思いますんでその辺の何をどこまで担保する かというのを明確にして記載をしていきたいと思います。
1:41:58	以上です。
1:42:08	谷です。次のところに進めます。
1:42:12	そうですね。
1:42:13	230 ページ。
1:42:19	なんですけど、これ、あれなんです、イセ小浦イデンは、
1:42:27	敷地に近いから、
1:42:30	念のため、地下構造についても確認するっていうのが目的になってる と。
1:42:36	いうことなんですけど、これ、この目的って、確かに、
1:42:43	地下構造を確認する。
1:42:47	近いことからっていうのが、
1:42:50	目的は、確認して何を示すのが目的なんですかっていうのが、何か あんまりよくわからなくて念のため地下構造についても確認します。
1:43:02	確認して何を。
1:43:04	やらなければいけないと思ってるのかっていうので、いや、私はこれ過 去の何ていうんですかね、火山活動の観点から、
1:43:15	整理するんだらうなっていうような想像するんですけど、
1:43:20	ただ最後の結論は、
1:43:26	複数の文献において現在の活動中侵害を抜くりであるとされていること と調和的な状況にあることが判断されるっていうのを、
1:43:37	確認し、
1:43:39	1、
1:43:41	となると、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:45	あれこの確認目的って何。本当にこう活動中心を確認しに行った、行くことが目的だったんだろうかと。
1:43:55	そうじゃなかったんですかね。その辺の何を目的にして何がわかったんですかっていうのをもう少し間簡潔に説明するとどう、どうなるか私の読み方が悪いのかな。
1:44:21	北海道電力の渡部です。
1:44:23	そうですね少し目的として何を達成するんだとか見えてないですね。
1:44:30	もともと先行サイトウさんを踏まえた上で、
1:44:34	ニセコ雷電っていうのは、到達可能性評価で、将来の到達可能性を否定できちゃうので、それで、
1:44:40	完結はできるんですけどやっぱり敷地に近いっていうこともあってスペシャルな検討をすべきっていうところろが大前提として入ってきてるんですけど、その結果何を達成するのっていうのが、
1:44:53	自社としてもすいません、曖昧になってるかなと。
1:44:56	思います。結局ここで言ってるのって、
1:45:00	イワオヌプリって今の活動中心
1:45:02	それを裏付けるようなデータがそろってますねっていうことが書かれて
1:45:06	じゃあ何なの結びついてないってのは確かにその通りかと思ひ
1:45:10	ところは、
1:45:11	少し確認検討させていただきたいと思います。
1:45:15	はい。ないです。多分ねこの目的が例えば既往文献で言われてることが正しいのか、判断に用いたものが正しいのかを確認するっていう。
1:45:25	目的であるんだったら何か今のコウ、
1:45:28	結論、まあまあ、
1:45:31	活動中心の話はともかくアノ。
1:45:34	そういうのは矛盾なかったっていうのは、そのまとめはありなのかもしれないんですけど、
1:45:39	少し近いから確認したっていう、伝わったと思いますけど、近いから確認した何が。
1:45:45	何を確認する必要があったのかそれで何がわかったのかっていうのが、もう少しこう明確にこう説明していただけたら、
1:45:53	なというふうに思いました。お願いします。
1:46:02	ました。
1:46:04	すいませんどんどん進めていきますね。
1:46:07	えっとねあとね、これ確認なんすけど 100、242 ページ 243 ページで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:46:20	この文献に基づく降下火砕物の分布っていうのは、
1:46:24	えさを使いましたっていうことなんですけれども、
1:46:28	これをエザワが何かすす今との、今は最新で精度がいいっていうことなんですかな。何でえさを使ってるのかっていうのを教えてくれたらと。
1:46:42	北海道電力の中山です。上江洲澤達使ってる理由なんですけれども。
1:46:52	ちょっと記載が、
1:46:54	ありがとうございます等ですね、町田アライ 2011 という文献なんですけれどもこちらの 2003 年時点のテフラの分布取りまとめているものになります。
1:47:04	2000、上差につきましては、頭に須藤ほか 2007 という文献をに、等に基づいて、なのでその 2003 年以降の文献、
1:47:17	取りまとめている須藤他が反映されているといったところでそちらを採用して、確認しているものになります
1:47:24	以上です。
1:47:27	谷です。だからあれですか、町田アライユリは、データが多くって、より精緻化されたようなデータを用いましたということですね。
1:47:38	はい。その通りです。
1:47:42	何か
1:47:44	243 ページの
1:47:48	* を読んでって、一つ気になったのが、
1:47:52	この東光と麻生線の中心部が不自然な眼鏡を予定するのはって言うのはこの阿蘇 4 の話ですよ。
1:48:00	これはアークGISの内装保管によって生じた見かけ上のものであるっていうことなんだけど、
1:48:06	これ北海道電力がワークGISをやるときに、内装保管っていうような機能を使ってるから、こういうのが出てしまうんだっていうことなんで、
1:48:26	A棟内で作業した内容、内装保管の結果としてこのような
1:48:32	結果が、図作図した関係でこういう形になっているという形です。
1:48:52	これ、私は別に結果には影響ないんで、
1:48:56	こだわらないんですけれども、その内装保管のさせ方で、
1:49:01	この眼鏡ならないようにできたりしないものなのかなと素人的にちょっと思ったんで聞いたんですけど、
1:49:09	これはあれですよこういうメガネが出てきてても、
1:49:13	別に評価には影響あるいうものではないし、
1:49:18	内挿管が悪さするようなことはないってこと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:21	でいいんですね。
1:49:24	北海道電力のワタナベですこれ作る際にこういったものが出てた。すいません。
1:49:29	もう1回確認しますけど、確かそれで著者にも確認をと
1:49:33	整理をしてたと思うんですよ。
1:49:36	その結果こうなってしまうよねってやりとりもあった記憶があるので、すいませんこのあたりもう少し。
1:49:41	整理させ
1:49:46	わかり
1:49:49	でですね、246 ページ以降なんですけれども、
1:49:56	何か、
1:49:58	丁寧に説明されてるのわかるんですけれども、
1:50:02	結局
1:50:04	何が大事かっていう話をすると、
1:50:09	246 ページ今の状況ですというのがあって、
1:50:14	247 ページは敷地、最後のこの敷地においては、そう暑う評価の検討対象となる堆積物以下の通りであるということで、
1:50:24	純層二次堆積物、純層っていうのが出てくるよと。
1:50:33	で、最大層厚がここで、ここで確認したよっていうのが書かれてるんですかね、層厚と。
1:50:39	うん。
1:50:43	でもですよ、これ二次二次堆積物をここで書く必要あるんですかね等やって結局 70 センチ以上っていう評価する。
1:50:52	ですよ。
1:50:53	これ、だから二次堆積物も含んだ、でも 70 センチ以上っていうのがわかればいいのかと思って何かここで二次堆積物と分けて効果書いて何か意味あるのかなとか。
1:51:06	思ったのと、これちょっと何か要するに御説明か。
1:51:10	もう一つ何か御説明しなきゃいけないようになるっていうようなことが、僕は思っています。
1:51:16	要するに、洞爺は少なくとも 70 センチ以上ありますよっていうのが、北海道電力の評価っていうことでいいんですかね。
1:51:26	おっしゃる通りで洞爺については、最大層厚で少なくとも 70 センチ以上が評価になりますので、この二次堆積物への 40 センチというのは、必要がないので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:37	消す方向で考えたいと思います。必要があるんだったら残していただきたらと思うんですけど。
1:51:43	で、次に2が248ページになってね。
1:51:47	F-1 断層開削調査箇所の火山灰っていうのが、Bっていうのがここに載ってるんですけど。
1:51:53	紛失元っていうふう書いてて、
1:51:56	洞爺か阿蘇か給源不明かとかって書いてるんですけど。
1:52:00	結局僕らは、
1:52:02	過去の会合でもうこれは給源不明として扱うんですよと火山灰評価ではっていうことを確認したつもりなんですけど。
1:52:09	だけでもやっぱりこれは書く必要あるんですか。
1:52:17	それとも私が勘違いしてんのかなこれはもう火山。
1:52:20	火山。
1:52:21	場合の総括評価では、給源不明として扱いますよ。
1:52:26	て聞いてたと思うんです
1:52:30	そうじゃない、えっとですねすみませんちょっとその意図が、
1:52:34	わかってなかったのかもしれないですけども、当社としては、この
1:52:39	F1 開削の火山灰、
1:52:41	対比で、
1:52:43	考えていきたいというふうに考え、台風で調査で確認しているものを実際に確認しているものと対比で、
1:52:51	何とか
1:52:53	区分していきたいなというところがあったので、洞爺阿蘇4といったところが、
1:52:57	敷地の近傍に認められるというところでの可能性も残して、
1:53:02	いるんですけども、
1:53:04	明確にその同じような年代のところ、
1:53:08	この
1:53:09	会食ABといったようなものが、に対してあるものはなかったというところ でQA不明、この差三本を、
1:53:17	今候補として挙げているんですけども、
1:53:24	原因不明。
1:53:26	そして今回取り扱うというところで、
1:53:29	この表には、給源不明という、
1:53:32	言葉を残すという形。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:37	先生、
1:53:38	させていただければと思います。
1:53:41	うん。これはどうしても主張されたいんだったら、
1:53:45	それでいいんですけど、一応話の流れとしてわかる中で、ここで、この後に出てくるのが洞爺と阿蘇は、
1:53:54	火山灰の影響評価、何かのステップで外しますよって言ったときに、
1:53:59	何かこういうこれどっちなんですかって、
1:54:02	またここで、
1:54:03	何か
1:54:04	話になりそうで、いや、書きたいんだったら給源不明とかにしておきながら、何かで、
1:54:11	補足して書くとか、
1:54:15	評価最終評価がここには入って欲しいなというのがリクエストです。
1:54:20	で、
1:54:21	すいませんね細かいことをどんどん言っていくような感じになるんですけど、250 ページが、
1:54:30	何かこれ、僕書き方違うのかなと思ってて最後のこの矢印の下ですね。
1:54:37	ここでさっきのコウ出てきた給源不明等や、阿蘇っていうののうち、洞爺と、
1:54:44	違う。
1:54:45	麻生、明日は外さないの。
1:54:47	SPFエーワンは外すよっていう話が出てて、
1:54:54	十分小さいと評価されるっていうのは、
1:54:57	このための跡がね、
1:54:59	とSPFエーワンの須藤八尾除いて、
1:55:03	最も層厚が大きい火山灰を、
1:55:07	正月評価の検討対象とするんですけど、
1:55:11	これ層厚評価の検討対象としては全部が入ってる中で、最大が、
1:55:18	崩壊色B。
1:55:20	ということじゃないんです。
1:55:22	層厚評価の検討対象って何なのかなっていうので、
1:55:28	と、
1:55:36	は外せる要件が上にあってね、その他は検討対象になってるんじゃないかな。その中で、最大は 23 センチです。
1:55:45	という説明だったら、すごくわかるんですけど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:48	そう、そうじゃなくて、
1:55:52	オクノワタナベアノすみません、検討対象という当社として用語の使い方としては、もう、
1:55:58	降下火砕物の層厚評価をするときに、大きく2本柱でやっていて、一つ目が地質調査と文献調査
1:56:07	でそこから選び出されるもの。
1:56:09	それシミュレーションから評価されるもの、それで決勝戦をさせるんですけど、その2本柱で出てくる連中に対して、検討対象評価検討
1:56:19	検討対象っていう用語を当ててたんですよ。
1:56:22	田井さんおっしゃってるのはもう選ばれた時点で、検討対象に入っていて、そこで勝ち抜いたのはタダノ最大として見るやつだよってことだと思うので、そういう形で書き直すことは問題ないと考えてございます。
1:56:36	多分検討対象という言葉がコウI、曖昧なんだと思ってて、
1:56:43	何で敷地の周辺の最大層厚からこう求められるものとしては、この23センチになるんですよ。
1:56:50	ていうのが伝わればいい。
1:56:52	その過程において、検討対象としたものがほかにもあるんだけどっていうのは僕は僕の頭なんですけど。
1:57:01	ちょっと何かその辺がわかるようにしてもらえたらな。
1:57:05	思います。いや上の文章とねセットになってるから。
1:57:11	わかりにくくなるんだと思うんですよ。
1:57:15	あとはもう何かこう思いましたよっていうコメント程度なんですけど、254ページのね。
1:57:21	このプロセスがね。
1:57:24	これがねちょっと強いシンプルにこう読めなかったっていう話なんですけれども。
1:57:31	何か、何、何でこれがこう読みづらかったのかなって思うと、何か、
1:57:36	こう、
1:57:37	考え方が、こういうものが選ぶべきだっていう考え方と、
1:57:42	選び方。
1:57:44	実際選ぶ手法っていうのが、
1:57:46	ごっちゃになってて、一方では考え方だけが書いてある一方は、手法がメインに書いてあるとかいうのが、各プロセスであって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:55	その辺がねこう見ててね、よくわかんなかったんで、プロセス1なんかね、
1:58:01	何か最初つまずいたんですけど、文献調査の結果及びに該当する降下火砕物以外のもの、
1:58:08	以外のものを抽出。
1:58:11	っていうので、ABっていうのが出てくるというのが、これ何、何目的がわかんないし、
1:58:19	この以外のものっていう使い方をこうしなきゃいけない。
1:58:23	ですかねこ以外のものっていうのが想像できないんですよ。
1:58:26	これを除外するだったらわかるんですよ、この全体的な。
1:58:30	ものから、こういうものを外していく。
1:58:32	で、
1:58:33	ちょっとその辺でねコウ
1:58:35	迷ってしまう。
1:58:38	現状において同規模の噴火の可能性のある降下火砕物を抽出って書いてるんですけど、
1:58:45	多分何かガイドとかで言うと、
1:58:48	文化の可能性が否定できないとかそういうコウちょっと。
1:58:52	気をつけた言葉は、
1:58:54	になるのかなというふうに思って、プロセス3は、
1:59:00	これは何かやり方が書かれてるんですよ。こういうやり方をやります
1:59:06	んで、
1:59:09	プロセス4っていうのがあるんですけど、結局プロセス4としては、ハブはじけなかった中で、敷地の距離が近い火山による降下火砕物、
1:59:19	この一つと。
1:59:21	大きいもの。
1:59:22	近いものと大きいものを選びますよっていう話ですよ。
1:59:26	これ、何かもうちょっと何でこの二つを選ぶのかっていうのを、
1:59:32	最後の詰めのところは、
1:59:35	説明して欲しくて、
1:59:37	いや何か要するにこう言いたいのはコウ。
1:59:42	2番目に近くなって2番目に噴出量が大きかったら、
1:59:47	そんなの影響ないの。
1:59:50	多分ないんです
1:59:52	そういう注目

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:56	マエネなんかうまくコウ、
1:59:59	多分僕も見ると、確かにこの大きなものを選んでるっていう、
2:00:04	あんまりこう、
2:00:07	他に小さいものがあるかって言うと、距離が小さいものがあるかっていうと、
2:00:13	ないんだ。
2:00:15	とかいうのがわかるのわかるんですけど、この二つを選ぶのでいいんですよっていうところをもう少し、
2:00:20	書いてもらえたらなというのと、
2:00:24	いうのと、
2:00:27	何だか。
2:00:28	254 ページで書いているプロセスと、
2:00:32	その次のページから書いてあるプロセスの言葉が若干違うかなって思ったんだけども一緒なのかな。
2:00:40	はい。そんなことを効果感じて、
2:00:43	います。これあれですよ。会合でも説明されるんですよこれを。
2:00:48	結構丁寧にされ
2:01:00	を、北海道電力の渡部です。メインは立地評価の部分をご審議いただくことになるかと思うんですけども、
2:01:07	今回
2:01:09	シミュレーションの選定対象として妥当なのか。
2:01:14	ていうところについて、
2:01:16	ここ重要な部分かと思ってございますので、後々の審査工程とかも踏まえてなんですけども、
2:01:22	ここについては、ご審議いただきたいと思っているので、
2:01:26	結果として会合においては、
2:01:27	丁寧に時間を割いてある程度説明させていただくことになるんじゃないかと思ってございます。以上です
2:01:34	わかりました。
2:01:37	抽出の方針までは、
2:01:40	抜けなく、
2:01:42	これ別に抜粋しているようなものじゃなくって、最終評価としてもこれが来るもので、
2:01:48	抽出の話までは、
2:01:51	全部そろえた。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:01:52	資料として、
2:01:54	少し丁寧に説明したいというこ
2:01:57	わかり
2:02:18	と電力のワタナベです。先ほどのシミュレーションのプロセスのところ、すみません
2:02:24	抽出って用語に変にこだわってしまって、統一感持たせようと思ったところもあったんですけど、
2:02:30	アノ以外のものを抽出って結局そのままいうと所が良いなので、それは読みやすいような形に修正をしたいなと思ってございます。
2:02:41	はい。
2:02:43	承知しました。プロセス 4 で敷地に一番近いのと噴出規模が一番大きいのを選ぶっていうのは、
2:02:50	その前のプロセス 3 の段階で、
2:02:54	分布主軸上の敷地下給源から敷地までの距離と同距離のところっていうので、
2:03:00	最大になるようなテフラを選んできているのでは、
2:03:04	大きく見積もるやつは、一律上げてきてるだろうと。その中で一番噴出量が大きいものと敷地に近いもの二つをやっておけば、代表っていうかね包絡させられる。
2:03:14	というような考えがございまして、その辺が見えるように、
2:03:18	記載させて、
2:03:20	はい。
2:03:25	はい。
2:03:32	はい。
2:03:36	そうします
2:03:48	プロセス 1 には、本当にそのシミュレーションをする必要があるのかっていう観点でその考え方が入っているところで、
2:03:56	D34 が敷地への影響の観点ということで、なるべく敷地影響厚くなる方厚くなる方に、選び出していくとどうなるのかっていう手段的な考え方で、そこが少し混同して手段なの考えなのっていうところが見なってるので、もう少し、
2:04:12	読みやすいように検討させていただければと思います。以上です
2:05:05	なあ。これただ単にね、
2:05:09	体裁だけの話なんですけど、このコメント番号って、
2:05:17	6 ページ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:19	僕らの会合で
2:05:23	コメント番号 1 で、
2:05:25	理由じゃないですか。
2:05:27	今野コウ。
2:05:28	例えばコメント番号 1 っていうのは難波は立地評価の 1、営業評価の 1、火山噴出物の分布関連の位置っていうのが、
2:05:38	なんかねいっぱいあってね。
2:05:40	これ、何か投資してもらった方がいいんだけどなあとか。
2:05:44	思ったんですけど。
2:05:47	これを分けたりですね、この会合で言われたのと、
2:05:51	現地では分けたり、
2:05:54	少なく、
2:05:57	北海道電力箕輪です。今、今の番号はいただいたときのもので分けてるんですけど、
2:06:03	確かわかりづらいという意見ももったのかなと思いますので、通し番号に、
2:06:09	整理し直したいと考えてます。
2:06:43	そうですね、何か。
2:06:50	豊田。
2:06:51	やっぱり 16 ページ以降とか
2:07:00	んとねえ。
2:07:04	資料をたどっていけなかったところが何個かあって、
2:07:12	例えばですよ、17 ページで、
2:07:17	刀禰。
2:07:18	極齡水の作業により形成された粒子が認められるって、どこ見たらわかるんですか。
2:07:31	ですねこちらの記載に関しましては補足し、説明資料のほうに記載が、
2:07:37	ございまして、
2:07:55	例えばですけど 170 ページの、
2:08:02	下側の箱の一番下のポチ、
2:08:10	それとその、その文章に関しての直接の記載に関しては 187 ページが一番わかりやすいかと。
2:08:16	思います。
2:08:34	187 ページの下側の箱に記載がございまして。
2:09:29	北海道電力の渡部です。これ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:09:32	幌似露頭維持に関するコメント集ってというのは基本的に補足説明資料の2-3の一緒に一式入れてるんですけど、
2:09:40	じゃ本編上でどうひもづいているのかっていう観点でいくとですね。
2:09:45	本編の16ページってというのが、これ、
2:09:48	指摘を箇条書きで三つあって細分化して書いている関係で、
2:09:53	16ページは地層区分を説明しろってということに対して、地層区分のダイジェストばつと書いてる状況になるんですけど、
2:10:01	その中でごく弱い水の作用っていうのが出てきて、そこに対しての直接的な回答は22ページ。
2:10:08	見ていただけますでしょうか。
2:10:14	22ページにシルトカラー度支援所の構造を持つ球形の粒子について、既往の地形等において示される明治の特徴との差異を説明することっていうところで、
2:10:25	資料の説明の中であったけなシノテフラとの比較などの取り組みをしていて、
2:10:31	その結果として24ページに、けなしの薄片とか見せてるんですけども、
2:10:37	25ページにけなしノートの比較結果等を踏まえた上で矢印の下ってというのが、先ほど補足に載ってるよと言ったのと同じ内容になるんですけども、
2:10:46	この粒子は、以下の三つの点から、名詞ではなく、
2:10:51	ごく弱い水の作用により形成したと判断されますよっていう。
2:10:55	部分、この部分はホームページを書いています
2:10:58	以上です
2:11:00	これあれですね風間芽衣氏があるんじゃないのかっていうのを風間明氏をよく観察して実は風間明氏じゃなくて
2:11:07	言い方悪いと逆手にとってというかその観察結果から、
2:11:12	いや、逆にあそこで見られた
2:11:15	ちょっと丸い粒子っていうのは、
2:11:19	堆積物で、
2:11:22	せよな、
2:11:23	環境下にあったからこんななんて言ってるんですね。
2:11:28	うん。
2:11:30	やっぱりねこれね、
2:11:33	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:11:35	研究も西来ですけども、観察アミノ、名刺のところの関連なんですけども、
2:11:43	けなしのTephraという。
2:11:45	一つのもので比較されてる。
2:11:49	もう、
2:11:51	なんていいますか、この
2:11:53	噴火による名刺とか他の分、
2:11:56	その名称の結果でも幾つかタイプがあつたりはするところなんですけどこの1種類での比較で十分だというお考えなのか。
2:12:04	とともに、確認をさせていただきたいのと、逆にその
2:12:08	まあコウじゃないから水の作業という話にはされてますけども、水の作用にとかによってできているような名刺の例というのがあつたりしてそちらと比較するという考えもあるかと思うんです
2:12:19	その辺りなんかさ、調査
2:12:22	検討はされようとしている。
2:12:29	北海道電力の渡部です。
2:12:31	とですね。
2:12:33	1月の面談の時にも少し似たような指摘を受けてございまして、家名城家なしのテフラでよしとする理由は何なのか。
2:12:42	と、一般論としての名刺はどう見えるのか。
2:12:45	その一般論からなぜケアシノとの比較に持っていくのか。
2:12:48	ていうところが少し説明として足りてないと
2:12:51	いうところがございまして、そこは肉付けして、次回のヒアリング等でご説明させていただければと考えてございます。以上です
2:13:05	義務の認識ですけども、
2:13:09	私もそういう一つだとどうなのかなっていう、ちょっと弱いかなと思ったところもあるので、
2:13:15	最後に言ったその水でできているものという事例があるんで、それとの比較ってのは結構中、むしろそれの方が近いですよっていうのを示せるの方がいい。
2:13:25	御社がいっぱいこととしたら、
2:13:27	ダイレクトに伝わるのかなという気もするので、その両方の側面から見せていただいている方が、我々としてもそういう、
2:13:36	今日見ていく上では非常にいいの
2:13:38	わかりやすくなるのかなと説明としてわかりやすく

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:13:41	かなと思いますのではいそのあたりご検討いただき
2:13:44	以上です。
2:13:55	あとは、
2:13:56	何かこの辺の話、少し
2:14:01	全体としてね、ここの幌似露頭 1 の評価として、全体としてどう考えるんでその一つ一つやったことの関係ってというのは、
2:14:10	整理して欲しいんですけど。
2:14:12	何か
2:14:14	これは安山岩も出てきてて泥岩も出てきていますよってというような話が、
2:14:21	結構前面に出てったんですけど、確かね。
2:14:29	泥岩力があるからってというのが、
2:14:33	何か
2:14:35	これ、
2:14:36	あれ、どこが引っかかったのか、すいませんちょっと。
2:14:39	何か。
2:14:40	そこの露頭には安山岩と泥岩があるよってというような話から始まったはずなんですけど。
2:14:47	資料見ていくと、いや泥岩なんてほんの少ししか出てないですよ。
2:14:52	19 ページに、
2:14:55	露頭観察の結果なんでね。そっか。
2:15:00	18 ページの黄色の四角囲みね。
2:15:04	上部壁面に認められる赤褐色ん認めない安山岩歴泥岩力が認められるっていつてこれこれすごくこう共通して書いてんですけど、やっぱり現地調査で、
2:15:15	確認している、現地で見ているものとしては、
2:15:18	安山岩歴等の、
2:15:20	火砕岩類、
2:15:22	に加えて、
2:15:23	ていう感があったってことなんですよね。
2:15:26	なんかこの辺の書き方を
2:15:30	言葉足らずだと、なんかこう見てるものをコースすごくこう誇張したりとか恣意的に書いてるような印象になってしまっていて、
2:15:41	何かその辺しっかり書いてください。
2:15:48	なんかねわかんないんすこの従来の上部壁面とか、
2:15:51	言われても、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:15:54	これ、ずっとみんながこうたどってこう理解してるわけじゃなくて、
2:15:59	場所はどこのことを言ってるのか、
2:16:03	藤。
2:16:05	この場所を説明するところがね、何かすごく難しかったです。私読んでてどこのことを言ってるのかっていうのが、
2:16:14	でもその辺も含めてちょっとこの、ここのフォローにはどう評価するんですかっていうのを、
2:16:19	しっかりと説明していただけたらと思いますのでお願いします。
2:16:48	はいすみません大分時間も押してしまってるので、ヒアリングは以上にしたいと思います。
2:16:53	どうもお疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。